

市民の声を施策に反映
まちづくりネットモニター
を実施しました



ターゲット 16.6

令和2年11月12日

(ネットモニターに関すること)

郡山市政策開発部広聴広報課

担当：上田 利実

TEL：924-2061

※ 調査内容については担当まで。

SDGs ターゲット 16.6 「有効で説明責任のある透明性の高い公共機関を発展させる」

2020年度まちづくりネットモニター（第8、9回調査）の調査結果をお知らせします。

○調査概要（詳細は別紙のとおりです。）

・第8回(9月4日(金)～13日(日))

テーマ	郡山市緑の基本計画について
目的	本計画を改定するにあたり、多くの市民の皆さまから「郡山市の緑」についての意見をお伺いするため
考察	「よく利用する公園」、「後世に残したい、誇りに思う緑」の両方で「開成山公園」があげられていることから、今後も重点的な整備が必要である。
回答者数/率	315名(男性 149名 女性 166名) 87.5%
担当	都市整備部公園緑地課 古川 裕勝 TEL：924-2361

・第9回(9月16日(水)～25日(金))

テーマ	食品ロスについて
目的	食品ロス削減に向けた具体的な取り組みを検討するため
考察	「食品ロス」が問題になっていることについて理解しているものが多い。全国や他市町村の動向を見ながら、コロナ禍の中、衛生面を踏まえた食品ロス削減について検討を続ける必要があると考えられる。
回答者数/率	310名(男性 147名 女性 163名) 86.1%
担当	市民部セーフコミュニティ課 加藤 弘晃 TEL：924-2151



ウェブサイト
に
アクセス
できます。

https://www.city.koriyama.lg.jp/shiseijoho/koho_kocho/netmonitor/index.html

<まちづくりネットモニター>

郡山市では、市民の皆さまの意見等をお聞きする取り組みとして、様々な機会や方法等により実施しており、その一つとして、市民モニターの方々にご協力をいただきインターネットを活用した市政アンケートを実施しています。

(モニター数：360名(男性 172名、女性 188名))

今回は、2020年度第8、9回目の調査となります。

2020年度まちづくりネットモニター第8回調査結果 テーマ「郡山市緑の基本計画について」



郡山市では、都市緑地法第4条に基づき、緑地の適正な保全、緑化の推進を総合的かつ計画的に実施するために「郡山市緑の基本計画(2021年度～2030年度)」の改定を進めております。

この度は本計画を改定するにあたり、多くの市民の皆さまから「郡山市の緑」(※)についての意見をお伺いするため、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。

※ここで言う「緑」とは、樹木や草花といった植物だけでなく、山林・河川などの自然環境、農地・公園・街路樹などの人工的な緑、さらに、民有地の庭や花壇等の身近にある緑も含まれます。

(公園緑地課)

【調査概要】

- 調査期間 令和2年9月4日(金)～9月13日(日) 10日間
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を返信
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 315名 (男性 149名 女性 166名)
- 回答率 87.5%

【分析】

《回答者内訳》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	4	5	15	31	30	16	40	8	149
女性	7	10	39	54	38	15	2	1	166
合計	11	15	54	85	68	31	42	9	315

《緑の現状について》

- ・ 緑に対し、92.4%が「関心がある」または「やや関心がある」と回答
- ・ 10年前と比較した緑の量の変化について、39.0%が「変わらない」、31.7%が「やや減った」または「減った」、13.9%が「増えた」または「やや増えた」と回答

《公園について》

- ・ 公園の利用頻度について、30.5%が「ほとんど利用しない」と回答
- ・ 公園を利用する理由として、「子どもをあそばせるため(38.0%)」が最も多く、次いで「散歩、散策(35.6%)」が多い。また公園を利用しない理由として、「利用するきっかけ、時間がない(68.1%)」が最も多い。

《今後の緑の方針について》

- ・ 市が実施する取り組みに望むこととして、「公園・街路樹等の適切な維持管理(56.8%)」が最も多く、市民が実践している(または今後実践したい)取り組みとして「自宅の緑化(58.7%)」が最も多い。

【考察】

・ 10年前と比較した緑の量は、「変化なし」、または、「減少した」との回答が多かったものの、現状の緑の量、緑の質について、肯定的な回答(多い、満足、適正の合計)の割合が7割を超えており、郡山市の緑はおおむね良好であると考えられる。一方で、田畑の大幅な減少や公園・街路樹の管理不足等が指摘されていることから、今後、緑の保全・管理を一層強化する必要がある。

・ 約3割の方が公園を利用しておらず、年に数回利用の方が3割弱と公園の利用頻度はあまり高くない。公園を利用しない理由は7割弱の方が「利用するきっかけ、時間がない」と回答しており、公園を利用するきっかけをつくるためにも、駐車場の整備、民間が運営する施設の整備、イベントの開催等、利用したくなる公園を目指した施設整備等が必要である。また、新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式」を踏まえた公園の役割として、「休憩・憩いの場」、「運動・遊び・健康増進の場」、「災害時の避難場所」が特に重要視されており、「憩い」、「運動・健康」、「防災」といった役割を一層強化する必要がある。

・ 「よく利用する公園」、「後世に残したい、誇りに思う緑」の両方で「開成山公園」があげられていることから、今後も重点的な整備が必要である。

・ 市民が実施したい(実施している)取り組みとして、「自宅の緑化」が最も多いことから、まずは、身近な緑化活動に対する支援を検討・実施し、緑に関心を持っていただくことが重要である。

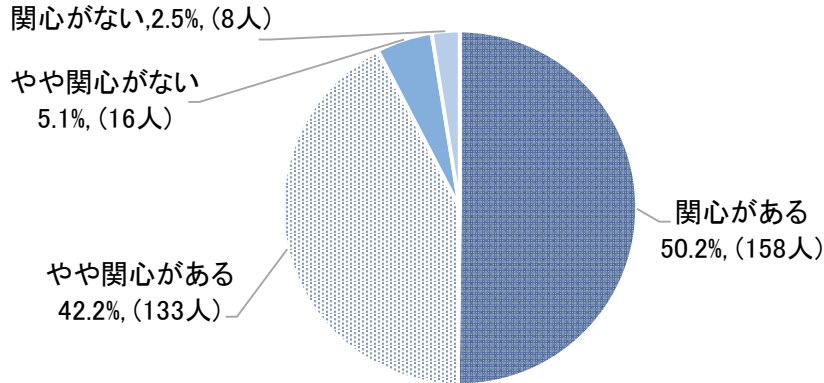
※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります

※複数回答・自由回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答・自由回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

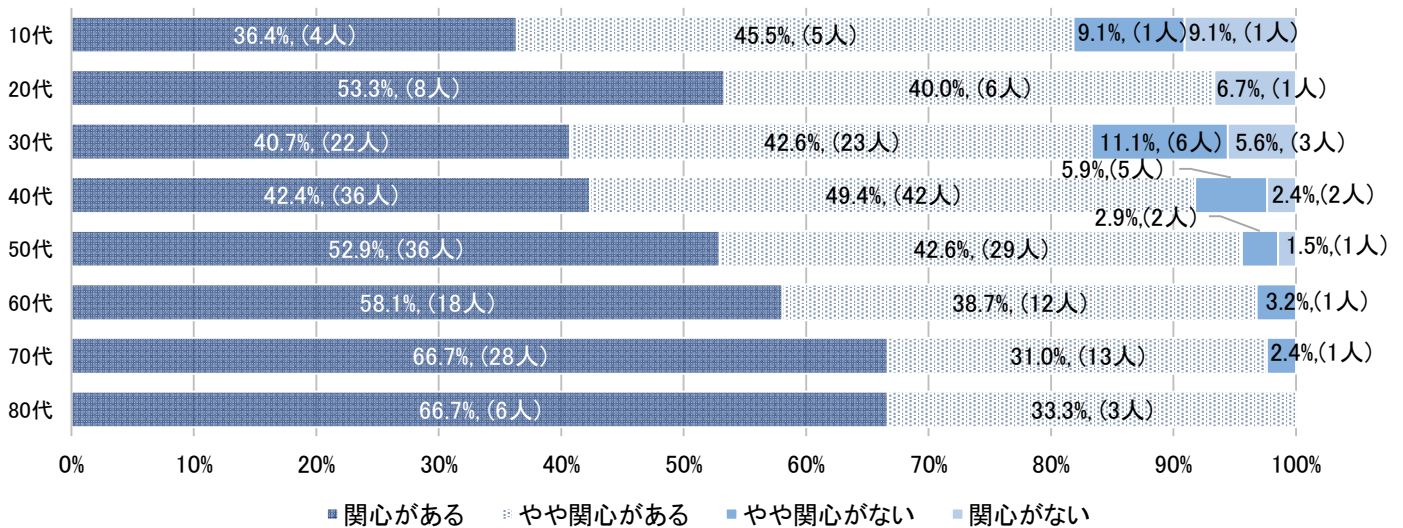
第1章 郡山市の緑の現状について

問1 緑に関心はありますか？（1つ選択）

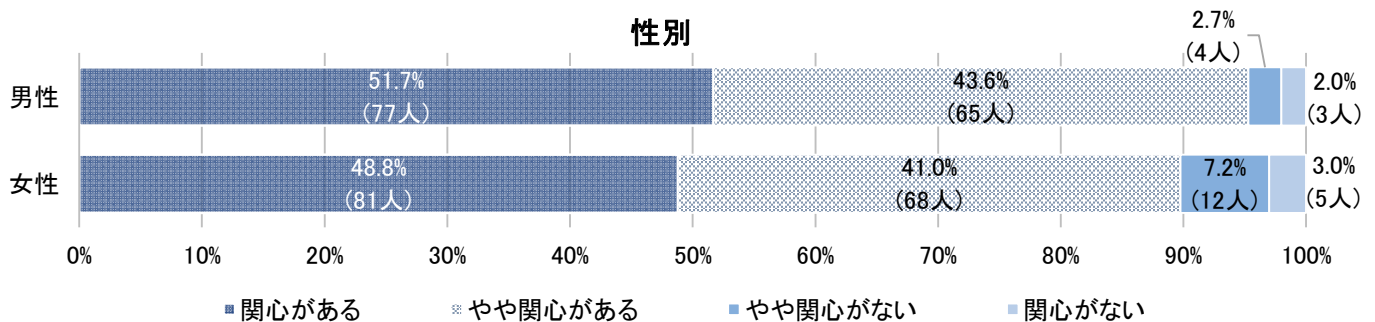
（回答者：315人）



年代別



性別



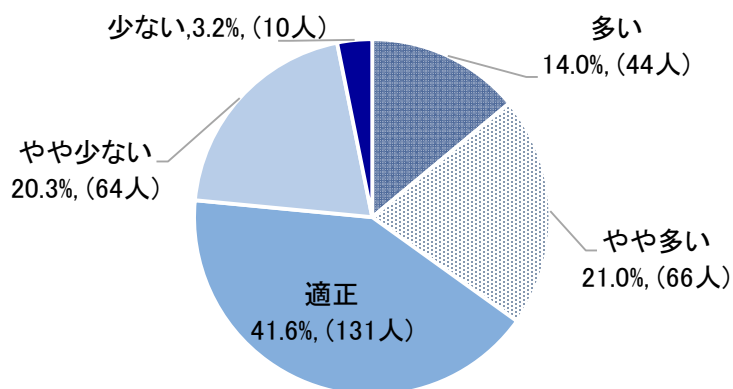
緑への関心について、全体をみると「関心がある」と「やや関心がある」の合計は9割を超えており、関心は非常に高い。

年代別では、20代・40代～80代は「関心がある」と「やや関心がある」の合計が9割を超えており、緑への関心が特に高いことが見受けられる。

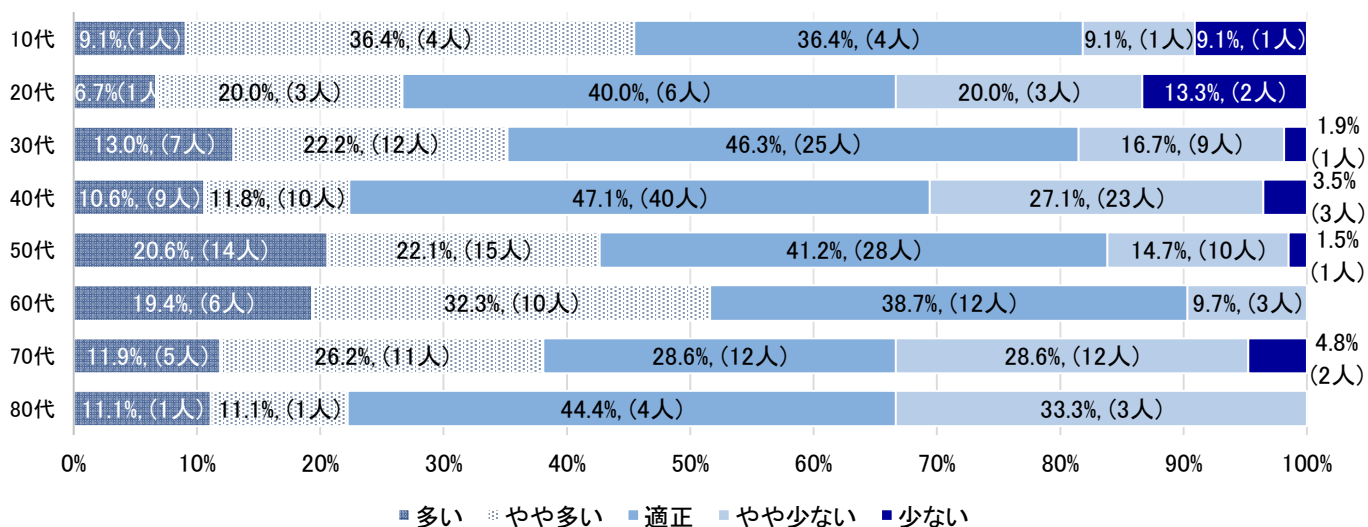
男女別では、大きな差異は見られない。

問2 お住まい（職場、学校含む）周辺の郡山市の緑の量について、どのように感じますか？
（1つ選択）

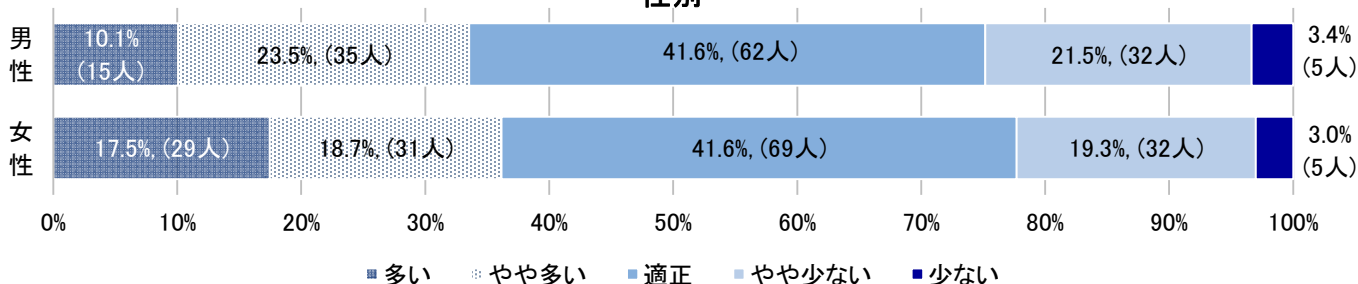
（回答者：315人）



年代別



性別



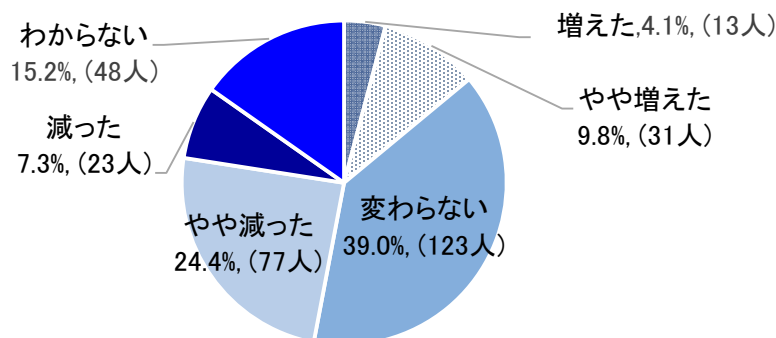
緑の量について、全体をみると「適正」が41.6%と最も多く、次いで「多い」、「やや多い」の合計が35.0%、「少ない」、「やや少ない」の合計が23.5%となっており、「適正」、「多い」、「やや多い」の合計が7割を超えていることから、緑の量はおおむね満足されていると考えられる。

年代別では、60代・10代・50代の順に「多い」、「やや多い」の割合が高くなっている。

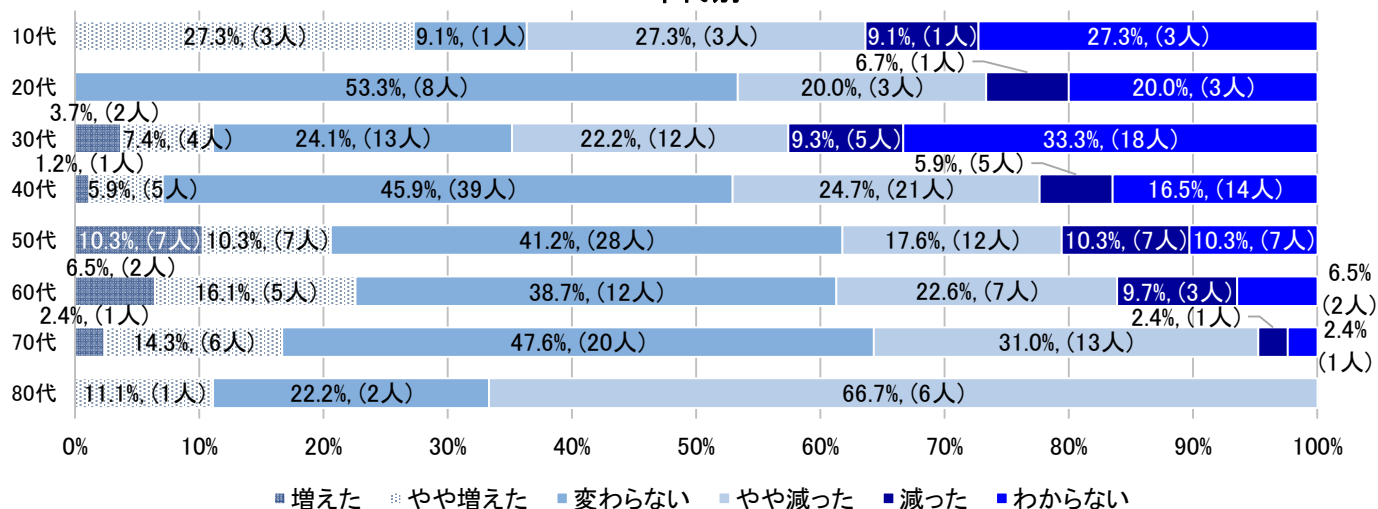
男女別では、大きな差異は見られない。

問3 10年前と比べて、郡山市の緑の量はどう変わりましたか？（1つ選択）

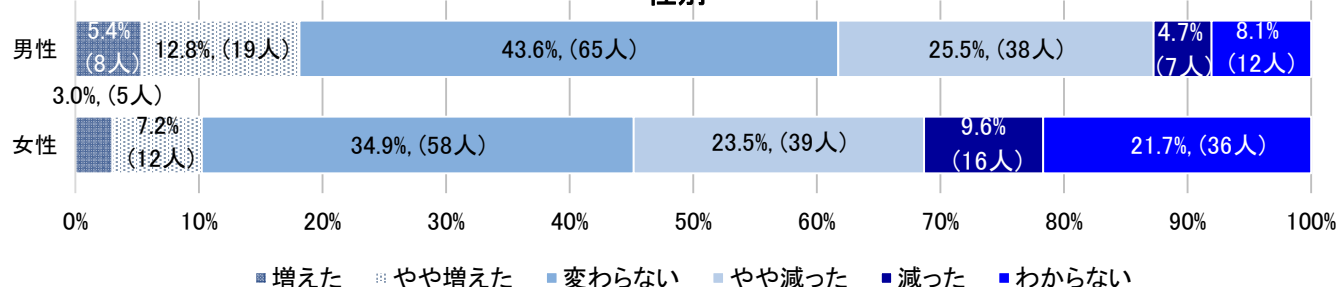
（回答者：315人）



年代別



性別



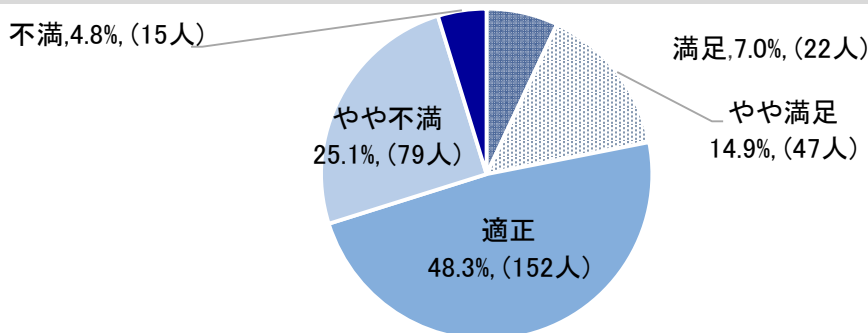
10年前の緑の量との比較について、全体をみると「変わらない」が39.0%と最も多く、次いで「減った」、「やや減った」の合計が31.7%、「増えた」、「やや増えた」の合計が13.9%となっており、増えたと感じている人は1割強しかいないことから、現状の緑の量は相対的に減ったと感じられていることが見受けられる。
 年代別では、10代・60代・50代の順に「増えた」、「やや増えた」の割合が高く、80代・10代・70代の順に「減った」、「やや減った」の割合が高い。
 男女別では、大きな差異は見られないものの、女性は「わからない」の回答が多くなっている。

問4 特に緑が増えた、または減ったと感じる具体的な理由や場所はどこですか？

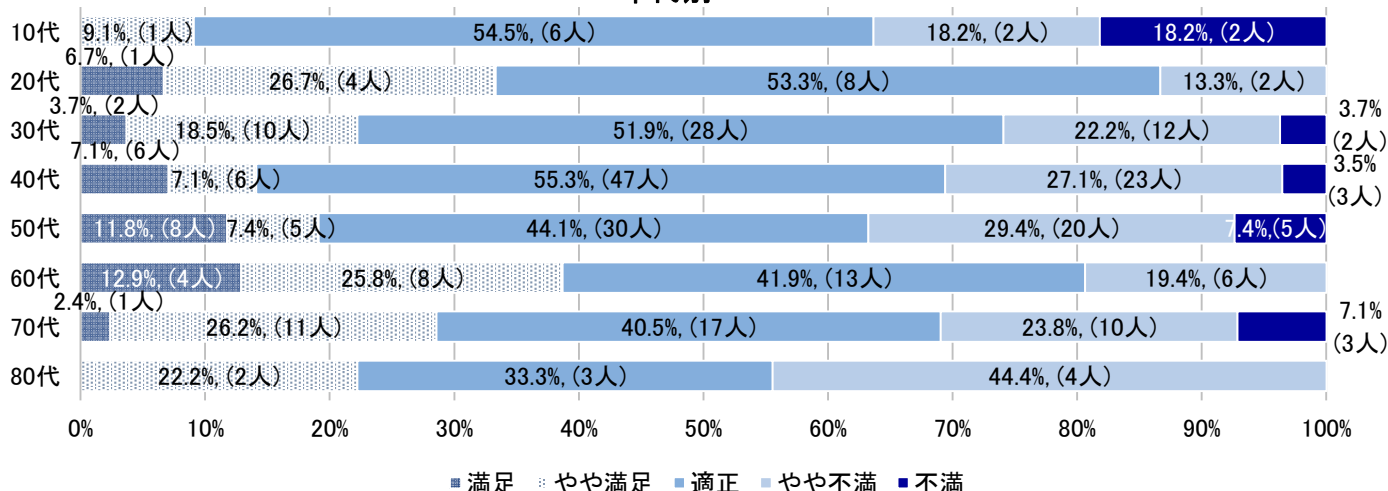
（回答者：108人）

緑が増えた場所としては、「住宅地」や「市街地・駅」などの回答があり、緑が増えた理由としては、「公園が増えた」や「街路樹が増えた」などの回答が多く、都市的土地利用が図られる場所においては、緑が増えたと感じられていることが見受けられる。
 一方、緑が減った場所としては、「逢瀬川の桜」や「八山田地域」、「市街地・駅」などの回答があり、緑が減った理由としては、「建物が増えた」や「田畑が減った」、「街路樹が減った」との回答があった。自然的土地利用から都市的土地利用に転換された場所について、緑が減ったと感じていることが見受けられる。

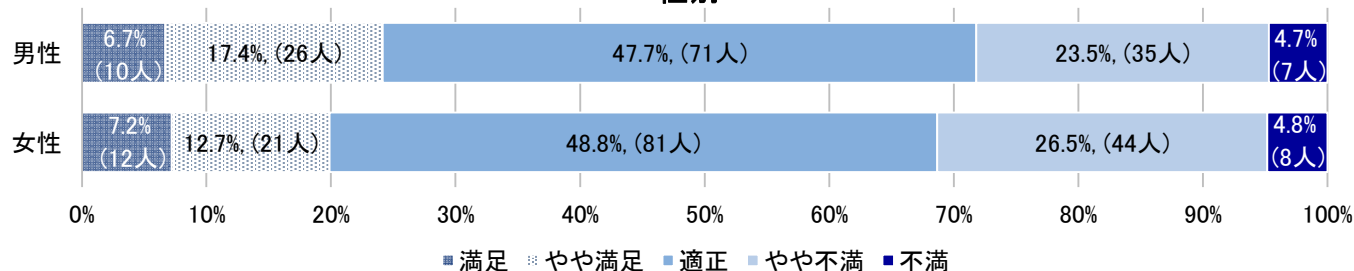
問5 お住まい（職場、学校含む）周辺の郡山市の緑の質について、満足していますか？（1つ選択）
 （回答者：315人）
 ※「緑の質」とは、緑の量だけではなく、美しさや多様な役割（環境保全、防災、レクリエーション、景観等）などのことを示します。



年代別



性別



緑の質について、全体をみると「適正」が48.3%と最も多く、次いで「やや不満」、「不満」の合計が29.9%、「満足」、「やや満足」の合計が21.9%となっており、「適正」、「満足」、「やや満足」の合計が7割を超えており、緑の質について、おおむね満足されていると考えられる。
 年代別では、60代・20代・70代の順に「満足」、「やや満足」の割合が高い。
 男女別では、大きな差異は見られない。

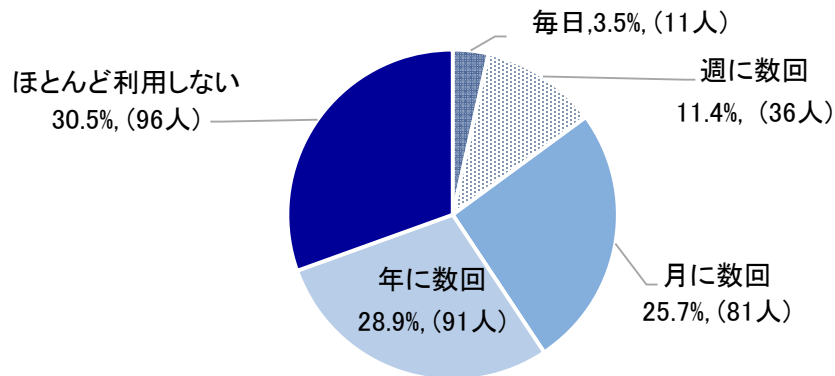
問6 問5で「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」を選択した方に伺います。特に緑の質に満足、または不満を感じる具体的な理由や場所はどこですか？
 （回答者：126人）

緑の質に満足を感じる場所としては、「開成山公園」や「近隣の公園・緑地」、緑の質に満足を感じる理由としては、「近隣の緑の量が多い」や「公園や樹木等に手入れが行き届いている」などの回答であった。
 緑の質に不満を感じる場所としては、「逢瀬川の桜」や「自宅周辺」、緑の質に不満を感じる理由としては、「公園・河川や空き地・空き家等」に手入れが行き届いていない」や「緑の量が不足している」などの回答があり、管理の状態が満足度に影響していることが考えられる。

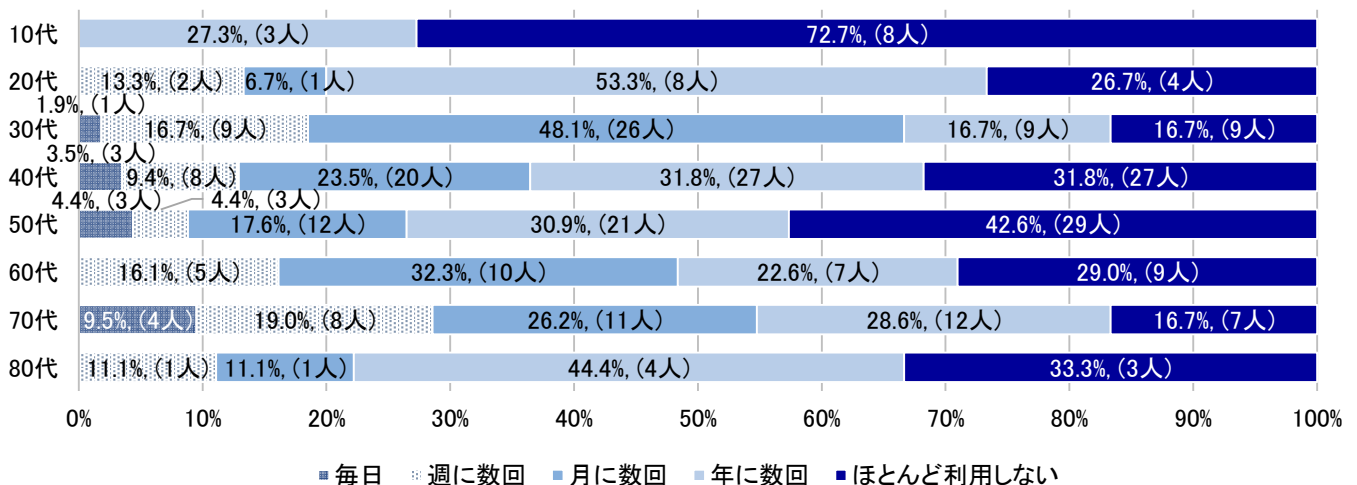
第2章 郡山市の公園について

問7 どの程度公園を利用しますか？（1つ選択）

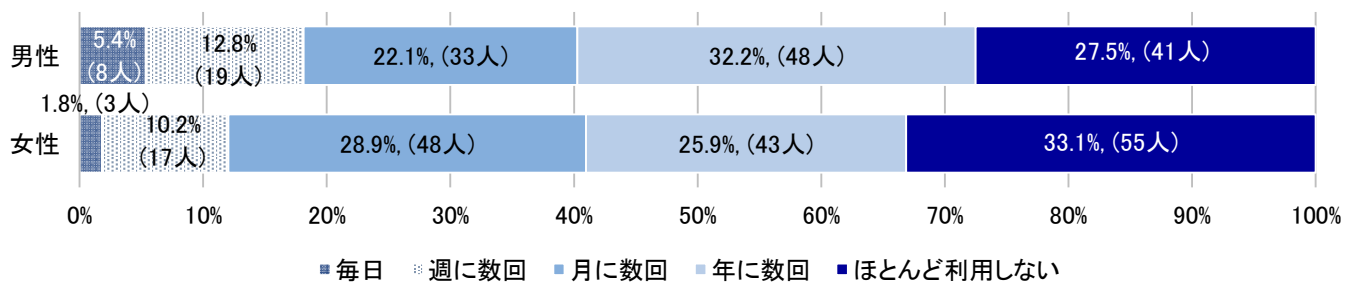
（回答者：315人）



年代別



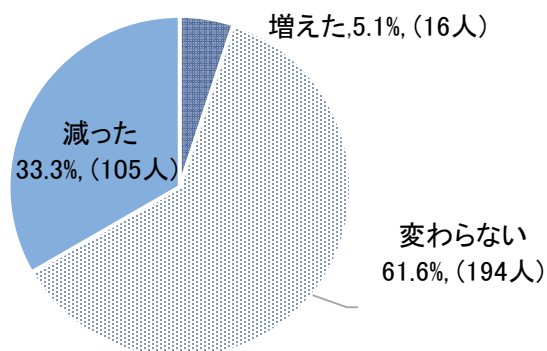
性別



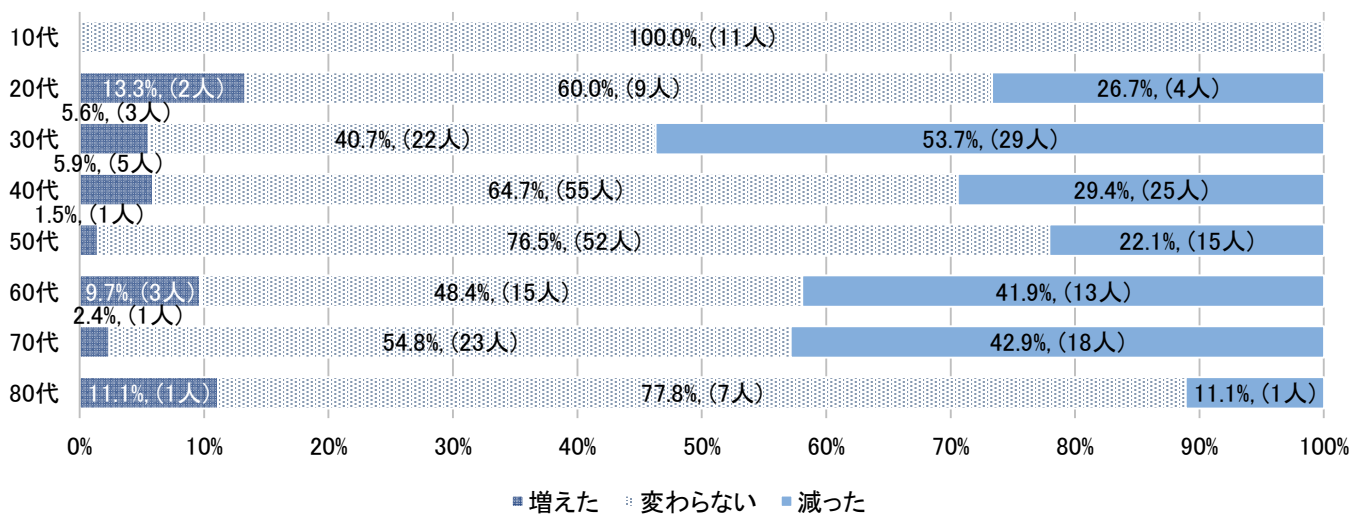
公園の利用頻度について、全体をみると「ほとんど利用しない」が30.5%と最も多く、次いで「年に数回」28.9%、「月に数回」25.7%、「週に数回」11.4%、「毎日」3.5%となっており、公園の利用頻度はあまり高くない。
年代別では、70代・30代・60代の順に「週に数回」、「毎日」の割合が高く、は10代・50代・80代の順に「ほとんど利用しない」の割合が高い。特に10代・20代の公園の利用頻度は非常に低い。
男女別では、大きな差異は見られない。

問8 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、公園の利用頻度はどうなりましたか？（1つ選択）

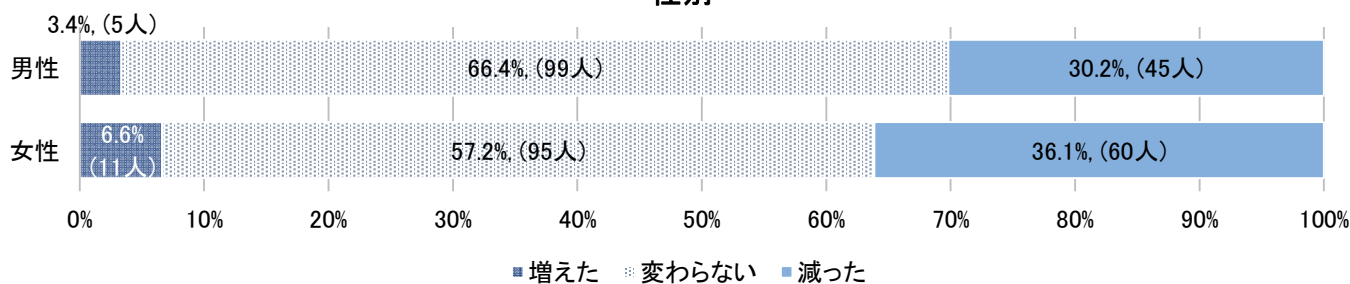
（回答者：315人）



年代別



性別

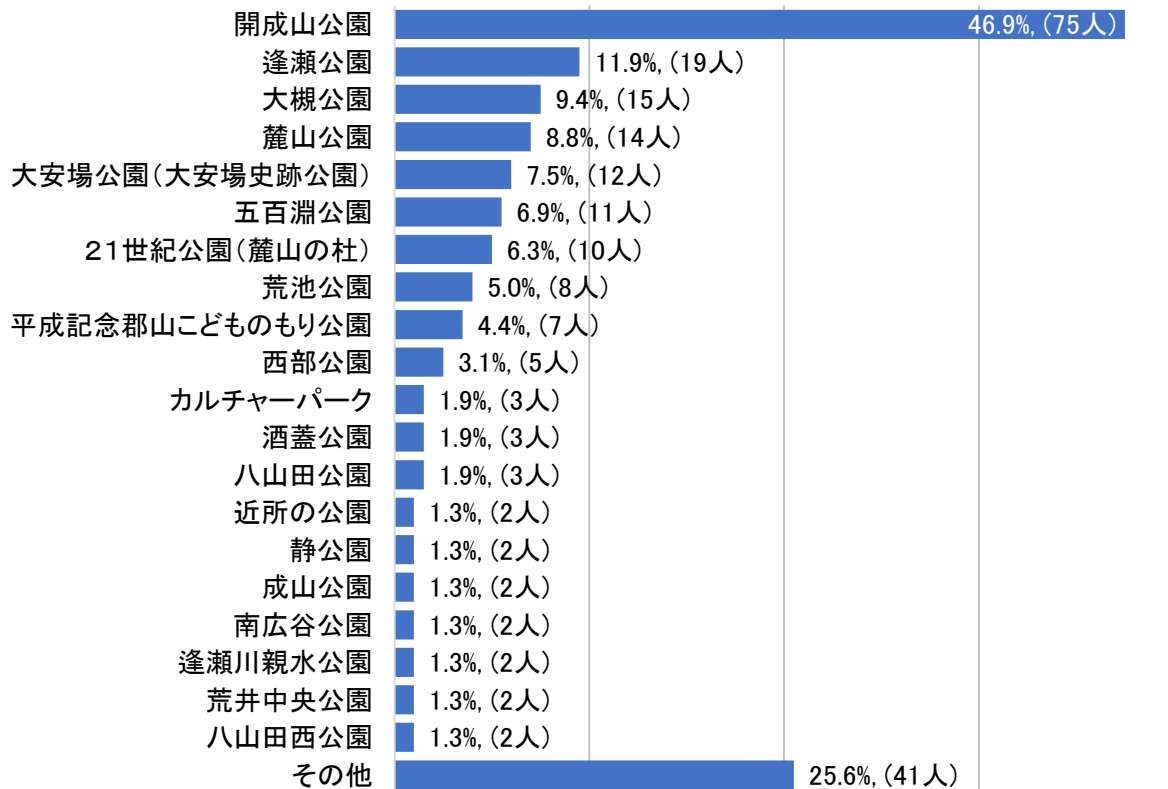


新型コロナウイルス感染拡大に伴う公園の利用頻度の変化について、「変わらない」の割合が61.6%と最も多く、次いで「減った」が33.3%、「増えた」が5.1%となっており、新型コロナウイルスの影響はそう大きくないが、外出を自粛していた影響で利用頻度が減った人の方が多い。

年代別では、30代・70代・60代の順に「減った」の割合が高い。

男女別では、男性と比べ、女性のほうが利用頻度の変化がみられる。

問9 問7で「毎日」「週に数回」「月に数回」「年に数回」を選択した方に伺います。利用する公園をお書きください。
 (回答者：160人)

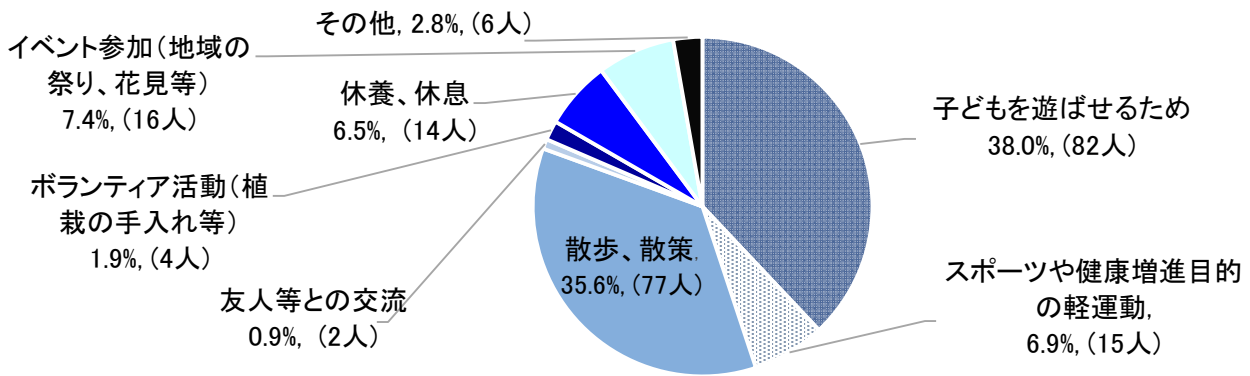


※「その他」を選択した方の主な意見

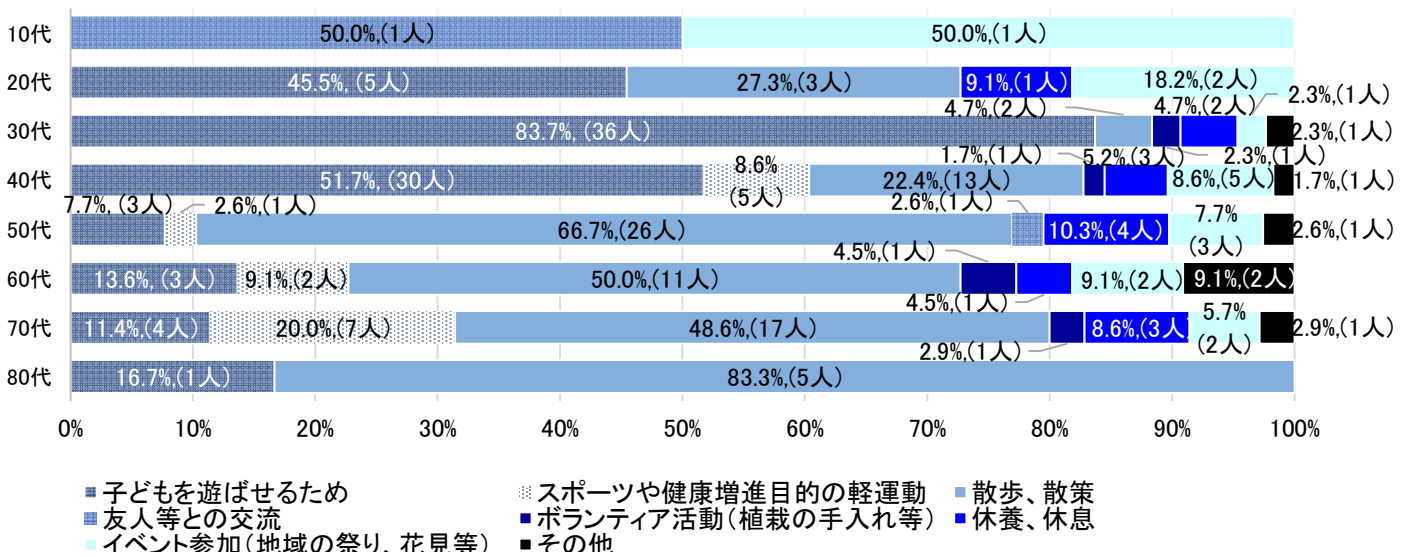
- ・近所の名前がわからない公園
- ・日によって違う

よく利用する公園の回答として、「開成山公園」46.9%と最も多く、次いで「逢瀬公園」11.9%、「大槻公園」9.4%、「麓山公園」8.8%、「大安場公園(大安場史跡公園)」7.5%、「五百淵公園」6.9%、「21世紀公園(山麓の杜)」6.3%となっており、開成山公園が他の公園よりも多くの人に利用されている傾向が見受けられる。

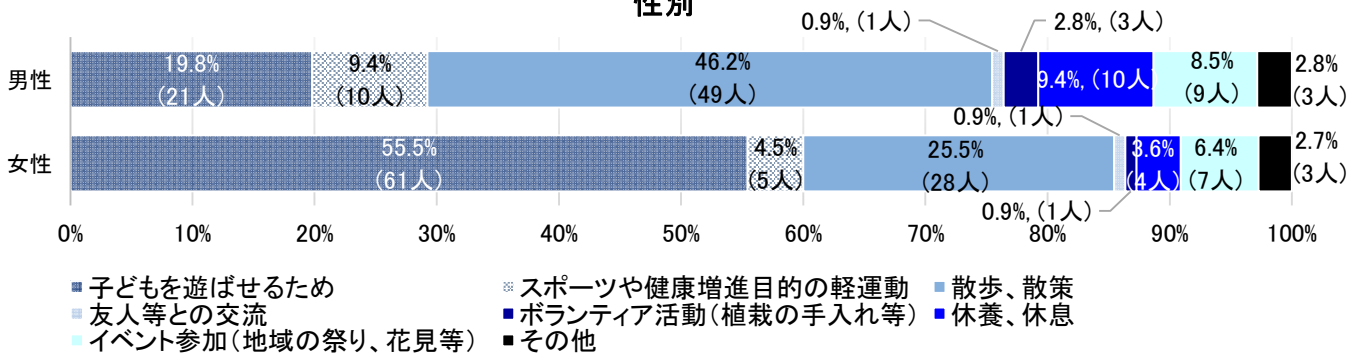
問10 問7で「毎日」「週に数回」「月に数回」「年に数回」を選択した方に伺います。利用する理由は何ですか？（1つ選択）
 （回答者：216人）



年代別



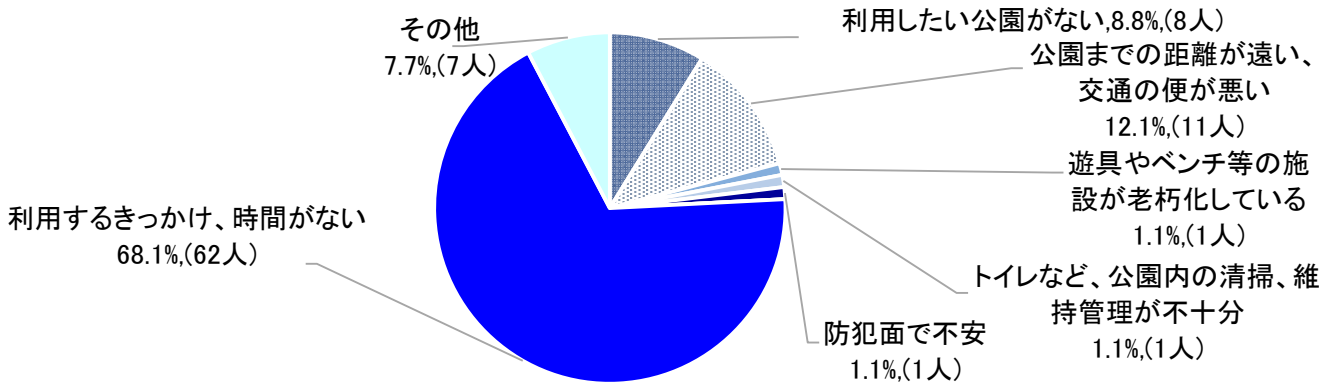
性別



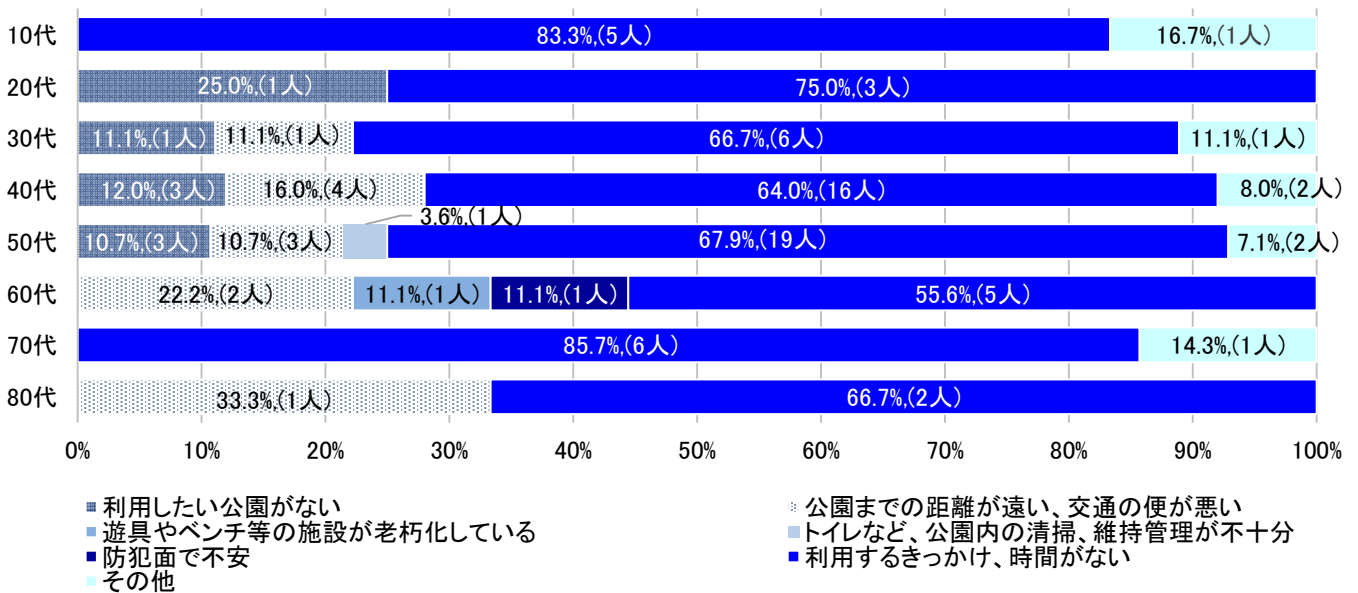
公園を利用する理由について、「子どもを遊ばせるため」が38.0%と最も多く、次いで「散歩、散策」35.6%、「イベント参加」7.4%、「スポーツや健康増進目的の軽運動」6.9%、「休養、休息」6.5%となっている。
 年代別では、20代～40代は「子どもを遊ばせるため」の割合が高く、50代～80代は「散歩、散策」の割合が高く、年代別に主な利用目的が異なることが分かる。
 男女別では、男性と比べ女性のほうが「子どもを遊ばせるため」の割合が高く、また、女性と比べ男性のほうが「散歩、散策」の割合が高い。

問11 問7で「ほとんど利用しない」を選択した方に伺います。利用しない理由は何ですか？
(1つ選択)

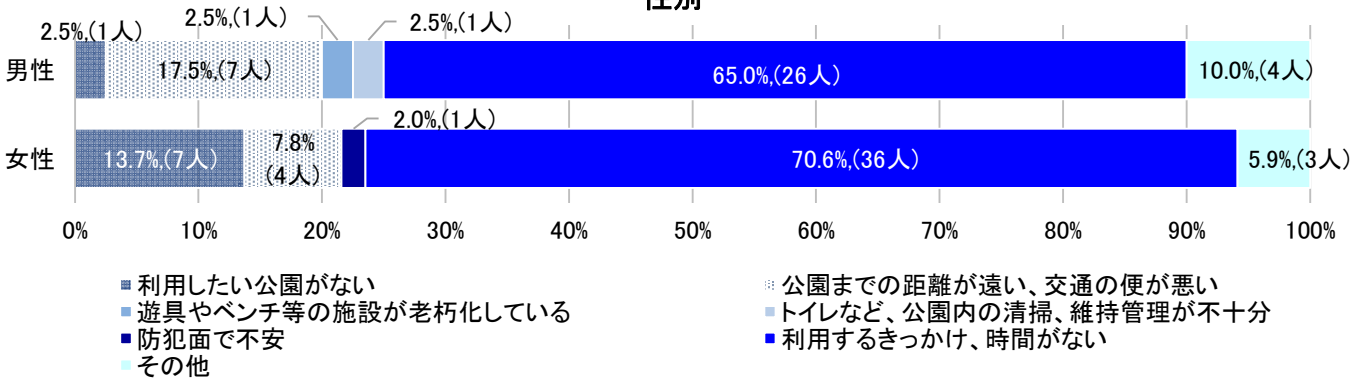
(回答者：91人)



年代別

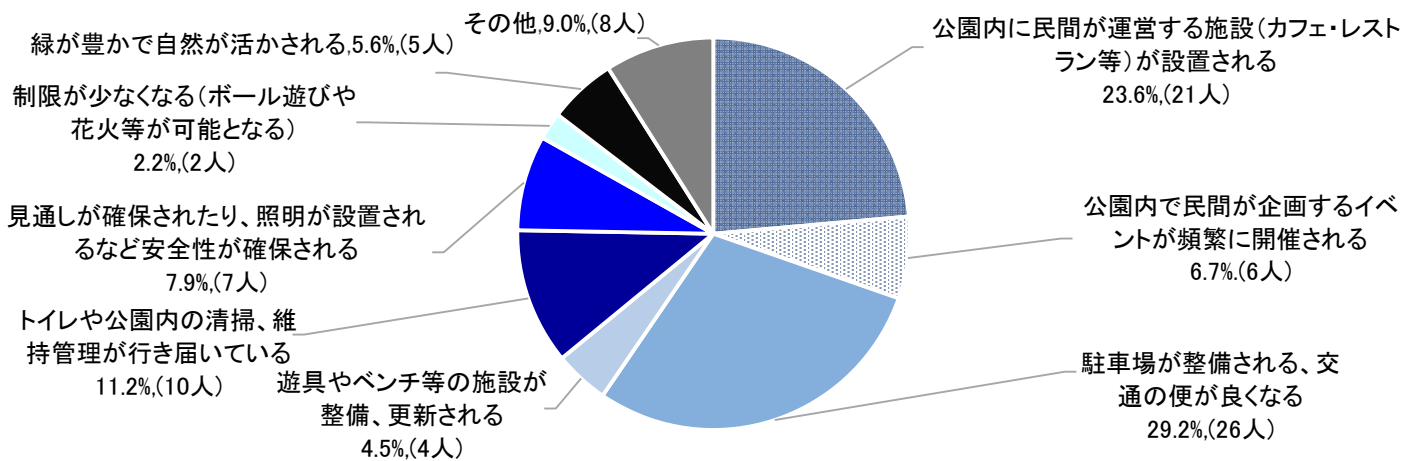


性別

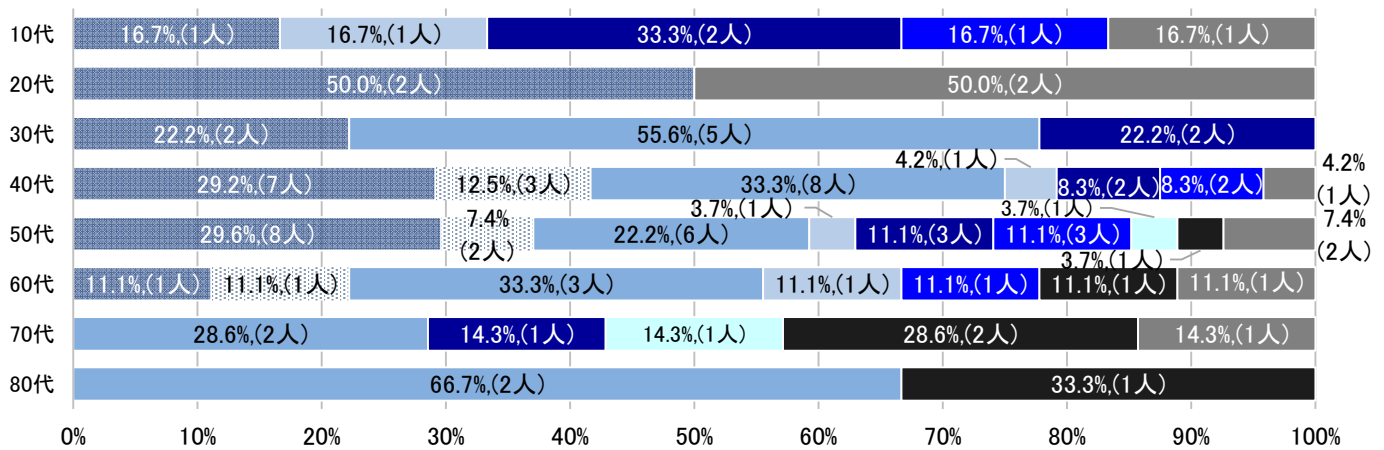


公園を利用しない理由について、「利用するきっかけ、時間がない」の割合が68.1%と最も多く、次いで「公園までの距離が遠い、交通の便が悪い」12.1%、「利用したい公園がない」8.8%となっており、多くの人に公園を利用してもらうためには、まずは公園を利用するきっかけづくりが必要と考えられる。
年代別では、どの年代でも「利用するきっかけ、時間がない」の割合が高い。
男女別では、男性と比べ女性のほうが「利用したい公園がない」の割合が高い。

問12 問7で「ほとんど利用しない」を選択した方に伺います。どのような公園になれば利用したいと思いますか？（1つ選択）
（回答者：89人）

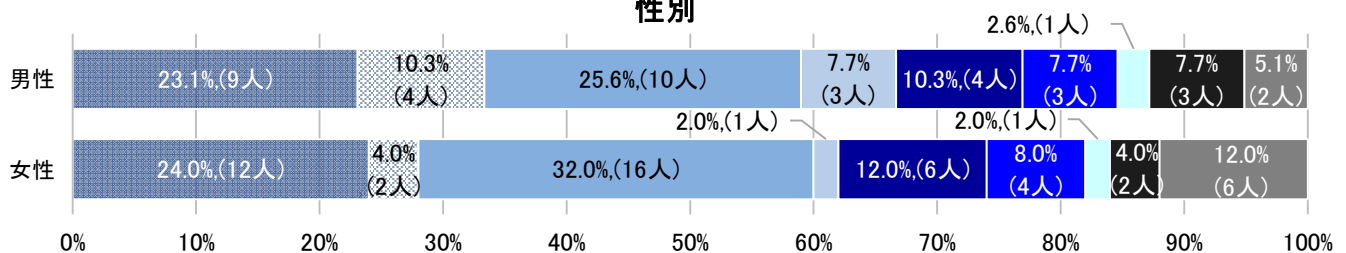


年代別



- 公園内に民間が運営する施設(カフェ・レストラン等)が設置される
- 公園内で民間が企画するイベントが頻繁に開催される
- 駐車場が整備される、交通の便が良くなる
- 遊具やベンチ等の施設が整備、更新される
- トイレや公園内の清掃、維持管理が行き届いている
- 見通しが確保されたり、照明が設置されるなど安全性が確保される
- 制限が少なくなる(ボール遊びや花火等が可能となる)
- 緑が豊かで自然が活かされる
- その他

性別



- 公園内に民間が運営する施設(カフェ・レストラン等)が設置される
- 公園内で民間が企画するイベントが頻繁に開催される
- 駐車場が整備される、交通の便が良くなる
- 遊具やベンチ等の施設が整備、更新される
- トイレや公園内の清掃、維持管理が行き届いている
- 見通しが確保されたり、照明が設置されるなど安全性が確保される
- 制限が少なくなる(ボール遊びや花火等が可能となる)
- 緑が豊かで自然が活かされる
- その他

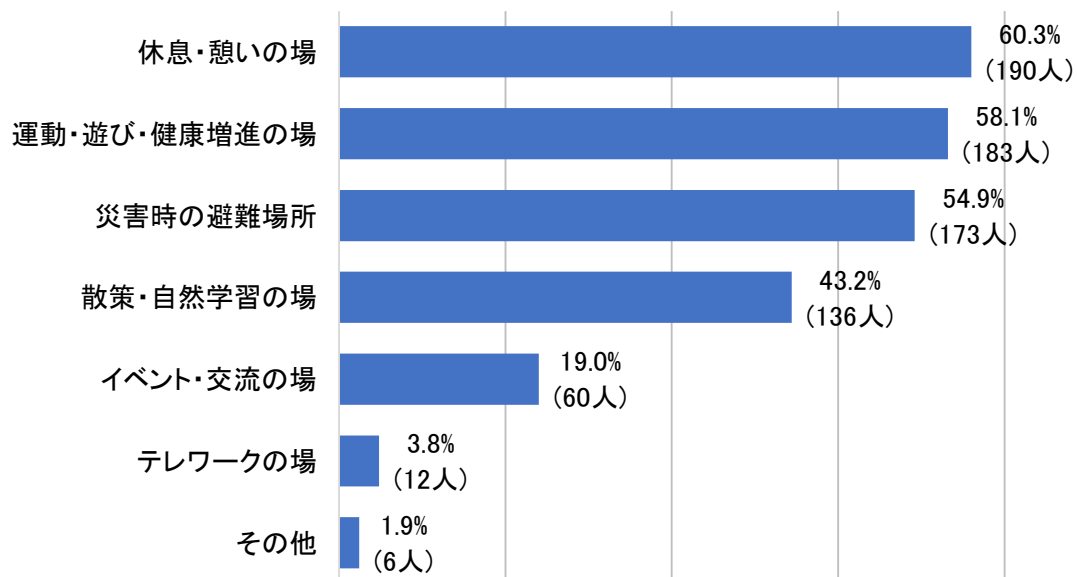
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・あづま運動公園のような自然を活かしつつ、小さい子からお年寄りまで楽しめる公園
- ・身体障がい者でも利用可能な公園であれば利用するかも知れません

どのような公園になれば利用したいかについて、「駐車場が整備される、交通の便が良くなる」の割合が29.2%と最も多く、次いで「公園内に民間が運営する施設(カフェ・レストラン等)が設置される」23.6%、「トイレや公園内の清掃、維持管理が行き届いている」11.2%となっており、公園利用を促進するため、駐車場や設備の整備やオープンスペースを活用したイベント開催等、利用したくなる環境整備・きっかけづくりが必要であると考えられる。年齢別では、10代～50代は「公園内に民間が運営する施設(カフェ・レストラン等)が設置される」の割合が高い。男女別では、大きな差異は見られない。

問13 新型コロナウイルス感染症に対応した「新しい生活様式」を踏まえ、公園の役割、機能として何が重要と考えますか？（3つまで選択可）

（回答者：315人）

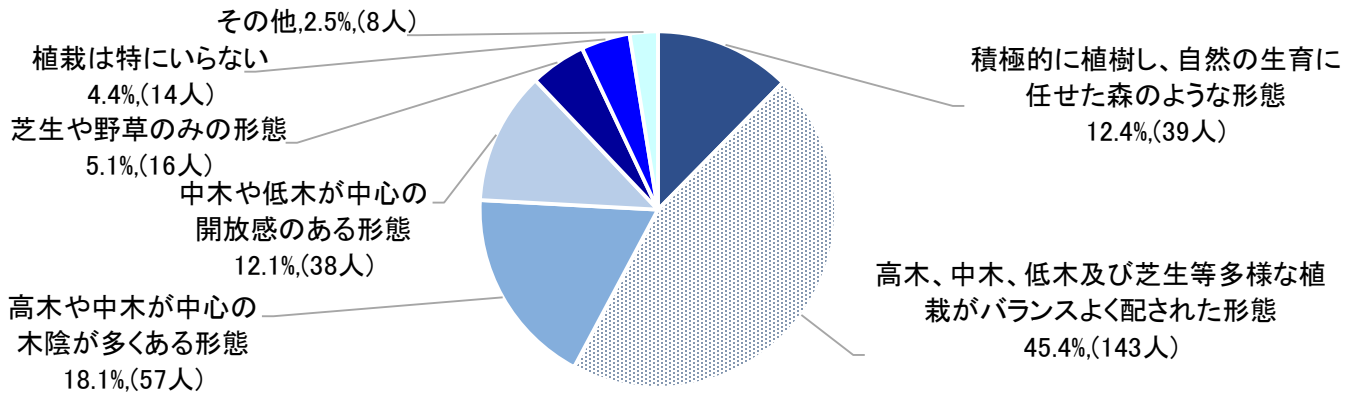


「新しい生活様式」を踏まえた重要な公園の役割、機能として、「休憩・憩いの場」が60.3%と最も多く、次いで「運動・遊び・健康増進の場」が58.1%、「災害時の避難場所」が54.9%、「散策・自然学習の場」が43.2%、「イベント・交流の場」が19.0%となっている。

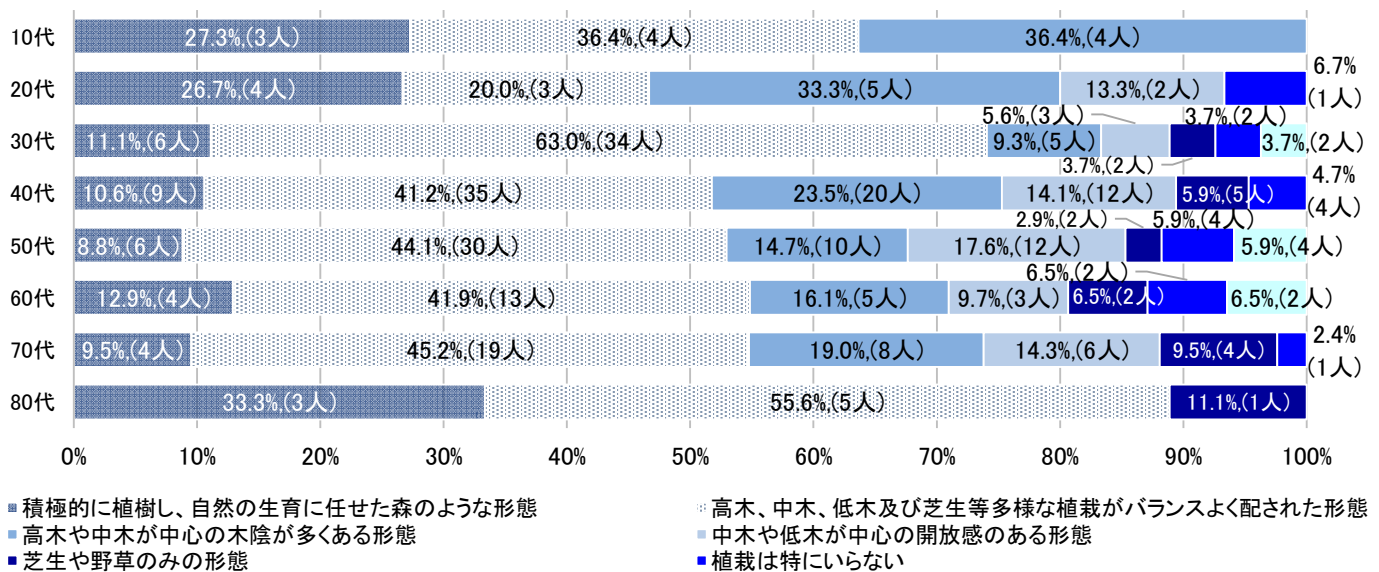
「休憩・憩いの場」、「運動・遊び・健康増進の場」、「災害時の避難場所」はそれぞれ回答者の半分以上が回答していることから、コロナ禍においても、特に重要視すべき役割・機能であると考えられる。

問14 公園の緑化について、どのような形態を望みますか？（1つ選択）

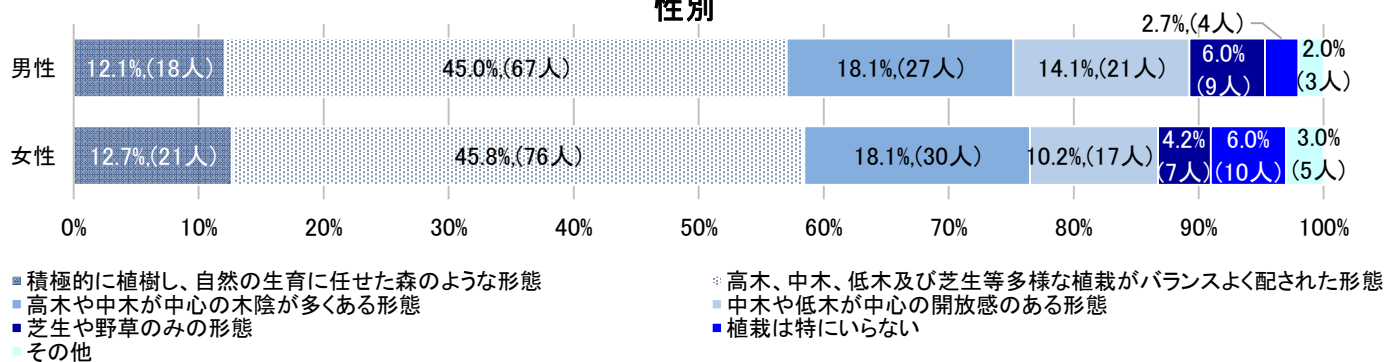
（回答者：315人）



年代別



性別



※「その他」を選択した方の主な意見

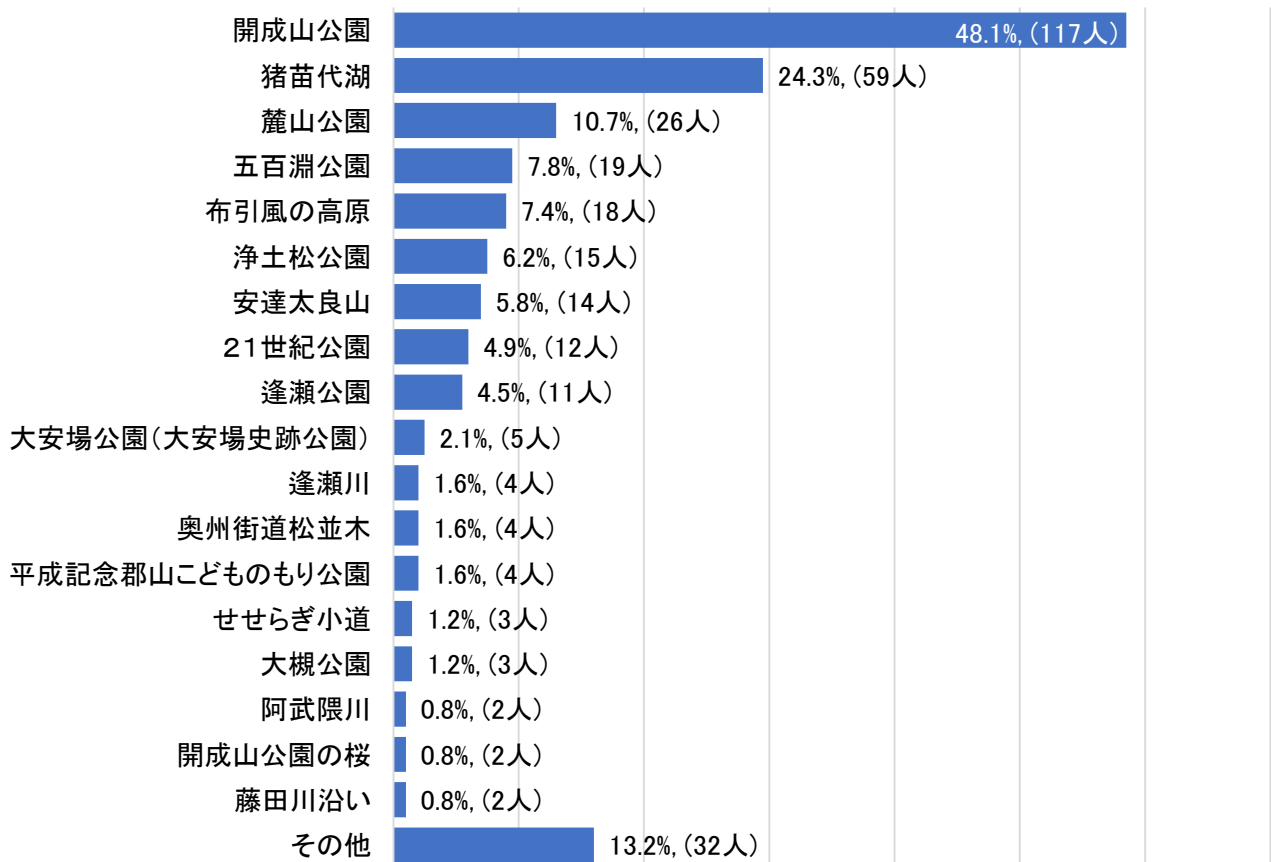
- ・木や植物があっても草刈りがされていないので、必要性を感じない。
- ・公園によってそれぞれ木の多いところ、芝生の多いところがあるので今のままで良いと思う

公園の緑化について、「高木、中木、低木及び芝生等多様な植栽がバランスよく配された形態」が45.4%と最も多く、次いで「高木や中木が中心の木陰が多くある形態」18.1%、「積極的に植樹し、自然の生育に任せた森のような形態」12.4%となっている。「植栽は特にいない」の割合は4.4%と非常に低い。
年代別では、30代で「高木、中木、低木及び芝生等多様な植栽がバランスよく配された形態」の割合が高い。
男女別では、大きな差異は見られない。

問15 後世に残したい、誇りに思う緑はどこですか？（自由記述）

（例：開成山公園、21世紀記念公園、麓山公園、五百淵公園、善宝池公園、浄土松公園、奥州街道松並木、猪苗代湖、阿武隈川、逢瀬川、古川池周辺、布引風の高原、安達太良山など）

（回答者：243人）



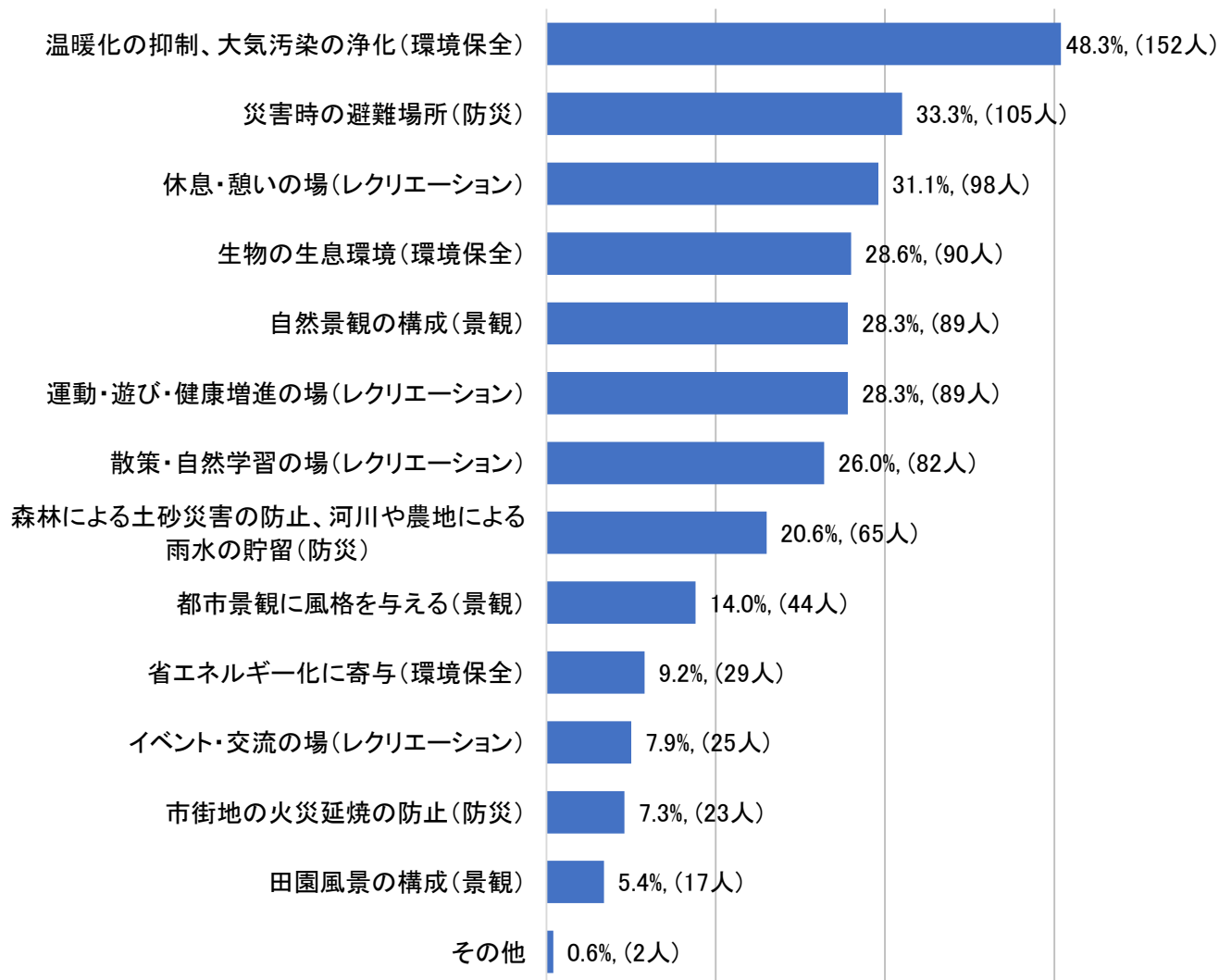
後世に残したい、誇りに思う緑として、「開成山公園」と回答した方が48.1%と最も多く、次いで「猪苗代湖」が24.3%、「麓山公園」が10.7%、「五百淵公園」が7.8%、「布引風の高原」が7.4%となっている。よく行く公園として回答が最も多かった「開成山公園」が最も多くあげられており、市民にとって身近で後世に残したい場所として認識されている。

第3章 今後の緑の方針について

問16 郡山市の緑（グリーンインフラ含む）について、どのような機能が必要と考えますか？
（3つまで選択可）

（回答者：315人）

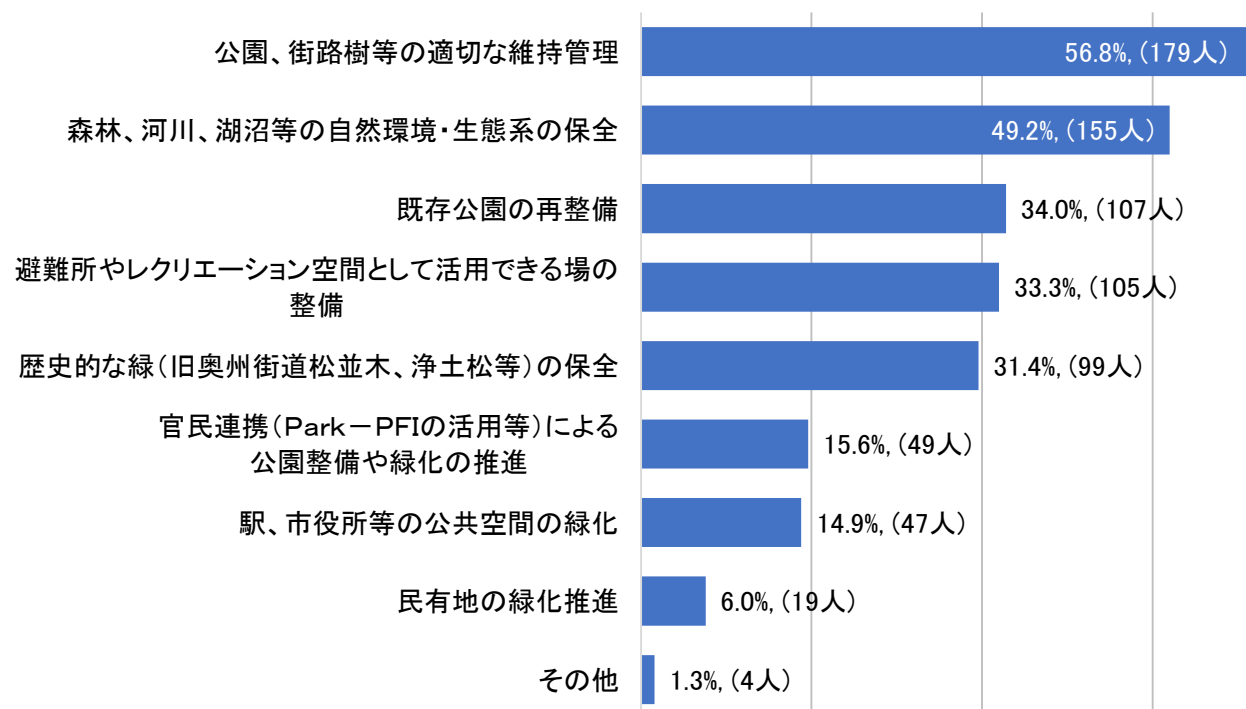
※「グリーンインフラ」とは、自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、気温上昇の抑制、ゲリラ豪雨への対応等）を活用した、持続可能な地域づくりのことをいいます。



緑の機能として、「温暖化の抑制、大気汚染の浄化（環境保全）」が48.3%と最も多く、次いで「災害時の避難場所（防災）」33.3%、「休息・憩いの場（レクリエーション）」31.3%、「生物の生息環境（環境保全）」28.6%、「自然景観の構成（景観）」28.3%、「運動・遊び・健康増進の場（レクリエーション）」28.3%となっており、地球温暖化や近年多発する大規模自然災害への関心の高さがうかがえる。

問17 あなたは、市が主体となって実施する取り組みとして、郡山市にどのような緑に関する取り組みを望みますか？（3つまで選択可）

（回答者：315人）

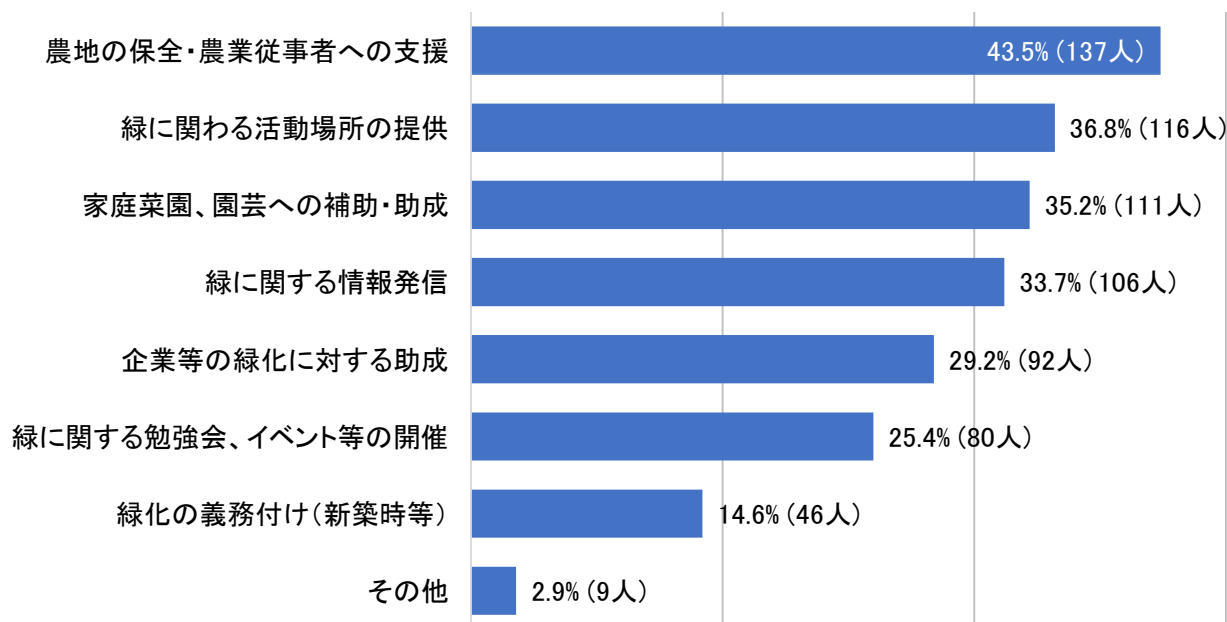


市が主体となって実施する取り組みについて、「公園、街路樹等の適切な維持管理」が56.8%と最も多く、次いで「森林、河川、湖沼等の自然環境・生態系の保全」49.2%、「既存公園の再整備」34.0%、「避難所やレクリエーション空間として活用できる場の整備」33.3%、「歴史的な緑(旧奥州街道松並木、浄土松等)の保全」31.4%となっている。

緑の質の満足度に管理の状態が影響していることに加え、市に対する要望も適切な維持管理が最も多い。

問18 あなたは、市民等への支援等として、郡山市にどのような緑に関する取り組みを望みますか？
(3つまで選択可)

(回答者：315人)



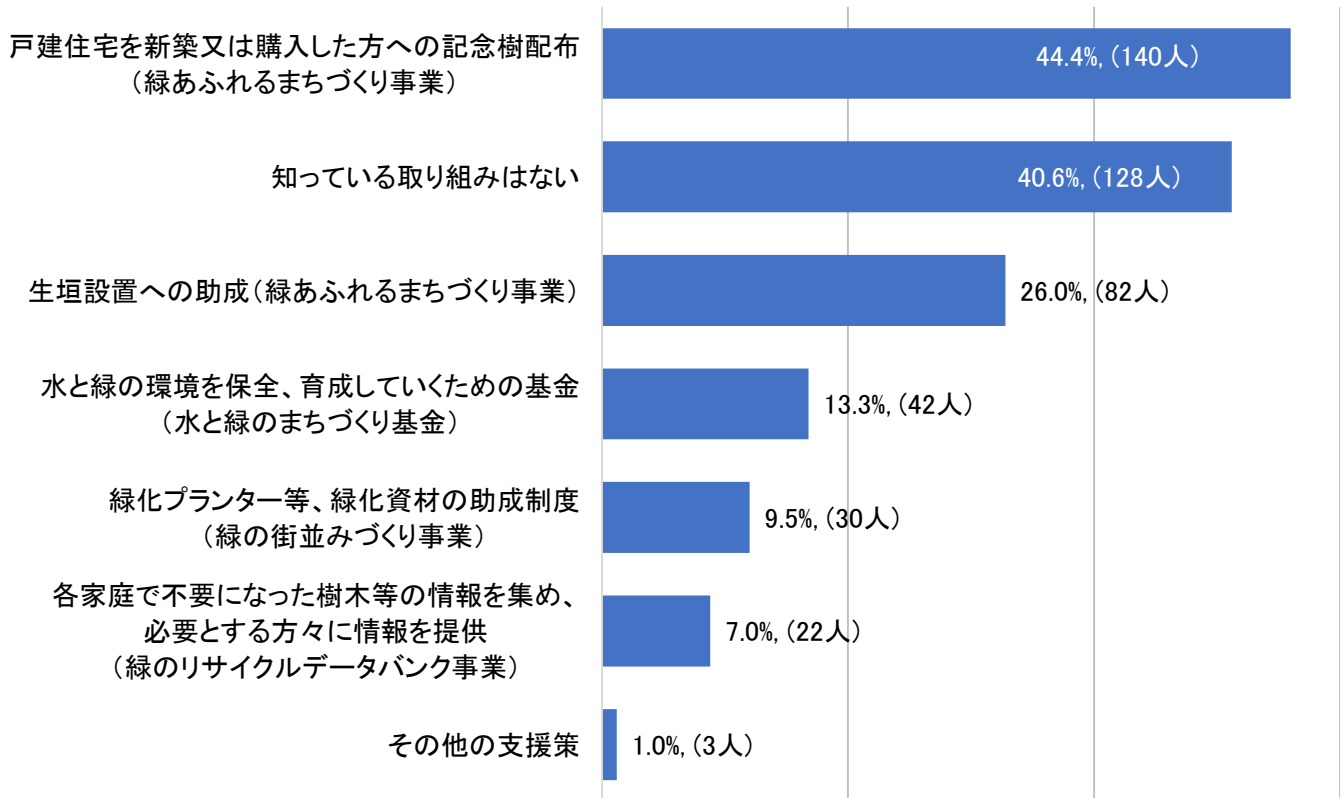
※「その他」を選択した方の主な意見

- ・個人所有の放置農地など、手入れができない所の除草の手伝い
- ・市民農園増やしたらどうですか？

市民などへの支援策等について、「農地の保全・農業従事者への支援」が43.5%と最も多く、次いで「緑に関わる活動場所の提供」36.8%、「家庭菜園、園芸への補助・助成」35.2%、「緑に関する情報発信」33.7%、「企業等の緑化に対する助成」29.2%となっている。

問19 郡山市では、次のような緑化支援策を実施しています。このうち、あなたをご存知の支援策はありますか？（複数選択可）

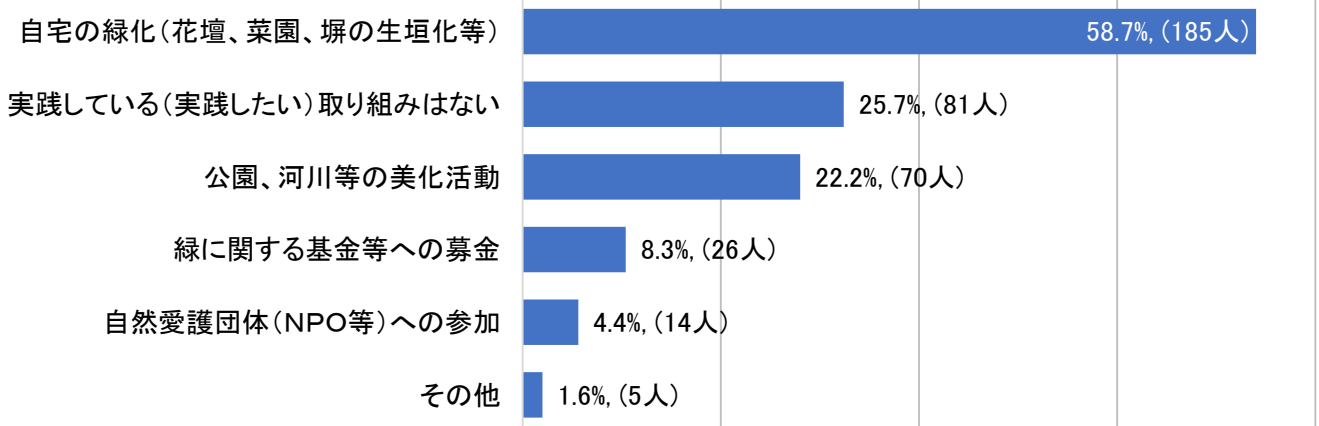
(回答者：315人)



市が実施する緑化支援策の知名度について、「戸建住宅を新築又は購入した方への記念樹配布(緑あふれるまちづくり事業)」が44.4%と最も多く、次いで「知っている取り組みはない」40.6%、「生垣設置への助成(緑あふれるまちづくり事業)」26.0%、「水と緑の環境を保全、育成していくための基金(水と緑のまちづくり基金)」13.3%人となっており、取り組みを知らない方も多く、更なる周知が必要と考えられる。

問20 現在あなたが実践している（または、今後実践したい）緑に関する取り組みはありますか？
（複数選択可）

（回答者：315人）



※「その他」を選択した方の主な意見

- ・自宅周りの除草
- ・地元町内会9箇所の公園・ゴミ集積場のボランティア草刈清掃管理

実践している（または、今後実践したい）緑に関する取り組みについて、「自宅の緑化（花壇、菜園、塀の生垣化等）」が58.7%と最も多く、次いで「実践している（実践したい）取り組みはない」25.7%、「公園、河川等の美化活動」22.2%、「緑に関する基金等への募金」8.3%となっている。美化活動などよりも、自宅の緑化への関心が高いことから、緑に関心を持ってもらうきっかけとして身近な緑に関する支援策の検討が必要であると考えられる。

問21 緑の施策について、ご意見やアイデアがあれば、ご自由にお書きください。

(回答者：86人)

緑の維持管理について

【公園】

市内の様々な公園を子どもと利用していますが、住宅街の中にあるような小さな公園の雑草やごみが落ちているのが気になります。また、トイレも古いものが多く、子どもが嫌がり利用できなかつたりします。(30代・女性)

以前は小さな公園や道路沿いの除草をしていたと思うのですが、震災以降あれ放題の所が多く見られます。開成山など大きな公園はきれいに整備されていますが…。また、逢瀬川沿の桜が伐採されていて残念です。大きな公園以外でも整備されるといいなと思います。(40代・女性)

【街路樹・道路等】

街路樹の剪定が樹木に関係なく行っている為花が見られないことがある。何時花芽が付くのかを調べて剪定してほしい。(70代・男性)

手入れがされてない緑は汚い見苦しい。特に市内や歩道。歩道にある大木は台風や強風で倒れると二次災害になり兼ねない。手入れしてほしい。車を運転する人は歩道の木が右折左折時に死角になって車が見づらいと言っていました。手入れしないならいらなと思います。(50代・女性)

郡山市は緑が多いと思いますが、反面、樹木の管理に手こずり、街路樹を五輪坊主に伐採する光景が見受けられる、将来考えた街路樹の選定が必要だと思います。(70代・男性)

緑の整備について

【公園】

緑の施策は地道な活動が必要と思うし、大切な物だと思います。町の中に小さな緑地があるととても癒やされます。使われなくなった土地などを利用した小さな緑の公園づくりは今後もやってほしいです。(60代・男性)

適切な緑化が必要だと思います。街路樹については鳥の糞害や雑草管理がされていない場所が目立ち歩道も狭くなるため撤去が望ましいと考えます。また、近所に公園予定地がありますが、何年も整備が進まず雑草が伸びています。雑草が伸びることにより蚊などの害虫も目立つようになってきました。せめて、フェンスで囲い、雑草管理をするだけでも広場として活用出来るのですが。早急な改善をお願いいたします。(30代・男性)

自然林を活かした森林公園を、市内の東西南北に整備して、それぞれ近くの市民が利用しやすくできるようにしたい。(60代・男性)

【街路樹・道路等】

緑を見ながら散歩できるような歩道や、サイクリングロードなどがあると市民の健康増進にもつながりよいと思う。(40代・女性)

郡山市の玄関口である郡山駅の広場などに、木など緑がもっとあれば、都市と緑が合わさった景観が生まれ、綺麗な良いイメージが生まれるのではないかと考えました。(30代・男性)

近年の夏の暑さは異常な高温であり、熱中症で救急搬送される方は、毎年3ケタに及んでいます。市内の公園や緑地内に車で駐車できるような、避暑スペース、歩行者が一休みできる木陰などを整備していただきたいと、思います。駅前周辺では、信号待ちの歩行者向けにミストを放出するシステムなども良いかもしれません。(40代・男性)

市民参加について

【ボランティア】

個人個人で緑を増やそうとしても手入れが行き届かないので、定期的に家庭の植物の育て方やそのお手伝いをしてくださる方が居ると心強く、たくさん植物を育てたいと意欲が湧くと思う。(40代・女性)

自宅や道路と地元公園近くにあるごみ集積場の草刈・清掃管理の呼びかけで緑化運動・綺麗なまちづくり運動は広まります。(30代・男性)

学校毎にある菜園や花壇などをもっと有効活用して、子どもたちが樹木や野菜などに関われる機会を増やしてはどうか。そのために先生方の負担にならないよう専門知識・技術を活かして菜園や花壇を管理する担当者をボランティアや地域活動で募ってはどうかと思う。地域の人と子どもたちとの交流の場にもなるのではないか。(60代・女性)

【イベント・コミュニティ】

今までは何もしていませんでしたが、自宅にプランターや野菜の苗を植え始めました。育て方で悩む時があります。そういった育て方を教えてもらえる場所があるといいですね(50代・女性)

公園や緑地を中心とした、新しいコミュニティづくりを推奨する。例えば緑地整備をしながらつながりをつくり、花見やイベントで周辺住民のつながりをつくる。(60代・男性)

市の緑化支援制度について

【既存制度の周知】

緑のリサイクルデータバンク事業は初めて知った。庭木は家族同様。譲り受けてくれる人がいればぜひと思う人は多いと思う。是非広く周知してほしい。(50代・女性)

戸建を購入した際、施策があったかはわからないが、さまざまな取り組みがあるのは知らなかった。力を入れたいならば、もっと企業や市民へ周知すべきだと思う。(30代・女性)

【新制度の要望】

緑の推進は良いが、他人に迷惑をかけない、もしもかけたら行政が注意するような制度がほしい。(50代・男性)

近年住宅で庭木を植える家がめっきり減りました。全て車庫にして複数台置けるようにしていること、手間と維持費がかかることが大きな要因です。ちょっとでも市からの支援があると助かります。我が家も自分が高齢化して先々不安です。(60代・男性)

市の方針について

【市の方針】

地球温暖化がますます進むなか、緑化は大切であり、官民連携して対応するべきだと思います。(20代・男性)

都市化が進むほど緑地帯が大切になる。全体としての緑地管理と緑地開発が重要と思う。水と緑のまち郡山がこれからも有り続けてほしい。(70代・男性)

緑化は聞こえは良いが毎年の維持管理費が大変と思うので予算との兼ね合いがあると思います。一概に増やせとは言いがたいです。(70代・男性)

緑のあり方について

【緑のあり方】

温暖化の進展で緑化が重要になってきています。市街地や郊外の緑化は、都市計画に合わせて推進する必要があります。また、市街地の高層化が進んでいる中では、屋上緑化を推奨するのも案です。屋上緑化をすることで中心部の高温化の緩和に寄与すると思います。これからは、環境面、温暖化面に焦点を当てながら、市街地、郊外の特性に応じた緑化が必要になってくると思います。(50代・男性)

憩いの場としての公園と災害時の避難場所としての両立が難しいと感じる。自然公園であればあまり手を入れてほしくないし、災害時にはテントなどを張れる避難スペースも必要。特に感染症拡大時には避難施設には避難しづらい(したくない)ので、最低限のライフライン設備(トイレと水、煮炊きの場所など)、気候や安全の条件を整えば、屋外でテントや車中での避難も選択肢に入れたい。ニーズに応じての整備や使い分けができれば良いと思う。(50代・女性)

その他

災害後に河川に流れ着いた木々やナイロンのようなものが横たわったままになっていたりするが、自然保護の方法だったり、河川の掃除だったりはどう取り組んでいるのか疑問だったりする。中々ウェブサイトを調べるという人も多くはないと思うので、市の取り組み方、どう対応しているのかなど、特に災害後など落ち着いてからTVで特集してくれたりしたら分かりやすいのかなあと思う。誰かが大変な中取り組んでくれているのかなあと考えたりするが、表立って見えてこないのが残念かと思う。(40代・女性)

先日久しぶりに大槻公園に行きました。コロナの影響で運動不足なので、手軽に歩ける場所を紹介する情報発信が必要だと思います。キャンプやBBQができる場所、星空観測、湖南町の猪苗代湖畔、登山道の整備など良い場所が多くあるので、多岐にお願いしたいです。(50代・女性)

人により好みは違いますが、福島市や山形市のように、小さい山が街中にあるのは素敵な風景だと思いました。残念ながら、郡山市はほとんど山を切り崩して平地にしているの、こういった景観は叶わないと思っています。COVID-19以降、にわか自転車脚光を浴びているので、小さな山が街中にあつたら、土の上でマウンテンバイクで楽しむなどもできたのかなと思います。(30代・男性)

日本では、本来食べられるのに捨てられる「食品ロス」が年間600万t超発生しています。これは1人1日当たりお茶碗1杯分のご飯の量に相当します。

国では、2019年10月に「食品ロス削減の推進に関する法律」が施行され、2020年3月に閣議決定された基本方針を踏まえ、都道府県及び市町村において、食品ロス削減推進計画を策定することとされました。

本市においては、2020年4月に「食品ロス削減推進担当連絡会」を設置し、食品ロス削減に向け、調査・研究を進めております。今後、食品ロス削減に向けた具体的な取り組みを検討するため、アンケートを実施しましたのでその結果についてお知らせします。

(セーフコミュニティ課)

調査概要

- 調査期間 令和2年9月16日(水)～9月25日(金) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 172名 女性 188名)
- 回答者数 310名 (男性 147名 女性 163名)
- 回答率 86.1%

【分析】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	5	3	15	30	30	16	40	8	147
女性	7	8	38	55	38	14	2	1	163
合計	12	11	53	85	68	30	42	9	310

《食品ロスについて》

- ・「食品ロス」が問題になっていることについて「よく知っている」「ある程度知っている」合計で9割を超えている(問1)
- ・「賞味期限」「消費期限」の言葉の違いについて全体の84.5%が「知っている」と回答し、あえて賞味期限・消費期限が近付いたものを買うと回答したものは全体の15.2%であったが、安くなっている場合は買うと回答したものは全体の45.8%であった(問2～4)
- ・消費者庁「令和元年消費者意識基本調査」(以下：消費者庁調査)の結果と比較すると、食品ロス削減につながる行動について6つの設問において、より高い割合で行っていることが読み取れる(問3～8)

《ごみ削減に向けた取り組みについて》

- ・郡山市の1人1日あたりのごみ排出量が全国の中核市の中で最も多いという環境省の調査結果について全体の81.0%が「知らない」と回答(問10)

《生活全般や消費生活における意識や行動について》

- ・倫理的消費(エシカル消費)という言葉について全体の79.0%が「知らない」と回答(問12)
- ・消費者庁調査の結果と比較すると、倫理的消費(エシカル消費)に該当する行動について、4つの設問において、より高い割合で行っていることが読み取れる(問15～18)
- ・消費者ホットライン188について全体の53.2%が「名前・番号どちらも知らない」と回答(問19)

【考察】

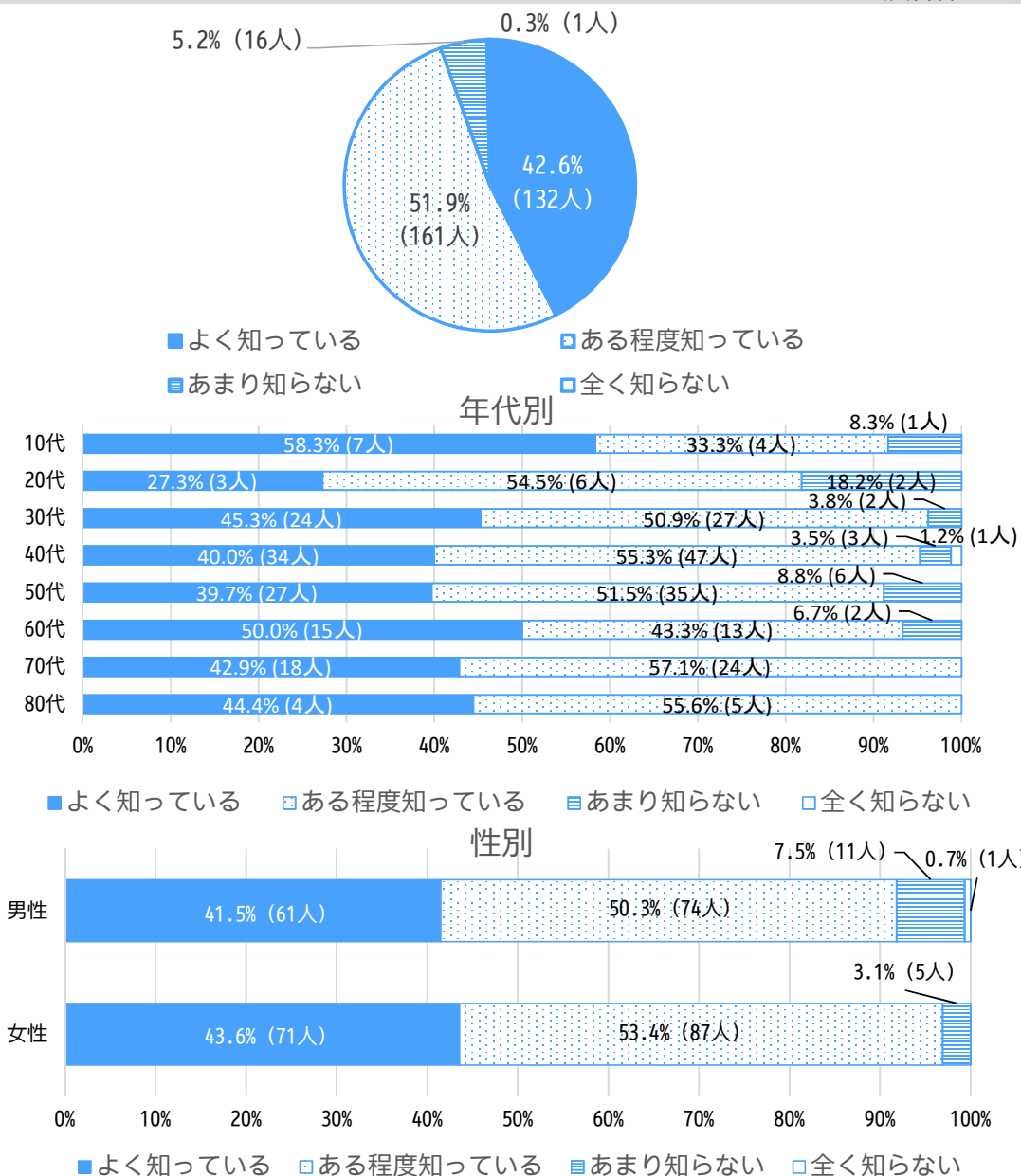
- ・「食品ロス」が問題になっていることについて理解している方が多く、全国と比較しても食品ロス削減につながる行動をとっている方が多くいることが推測できる一方、外出時の食べ残しを持ち帰る方は、全国的にも低い割合であり、今回の調査においても持ち帰りがしやすい制度があると良いという意見も見られた。今後、全国や他市町村の動向を見ながら、コロナ禍の中、衛生面を踏まえた食品ロス削減について検討を続ける必要があると考えられる。
- ・郡山市のごみ排出量が全国の中核市の中で最も多いことを知っているものは少ないため、今後様々な媒体を通してさらなる周知が必要と考えられる。
- ・倫理的消費(エシカル消費)についての認知度は低いが、全国と比較しても、それに該当する行動をとっている方が、高い割合でいることが推測できる。今後は一つ一つの消費行動が与える社会や環境への影響を理解してもらえるよう、電子媒体、講座等、さらなる周知を進めることが重要と考えられる。

※構成比は、端数を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

第1章 食品ロスについて

問1 近年「食品ロス」が問題となっていることをご存知ですか？（1つ選択）

（回答者：310人）



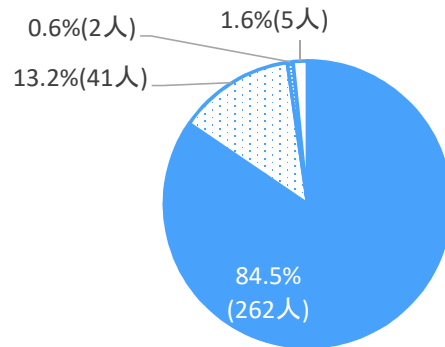
全体の42.6%が「よく知っている」、51.9%が「ある程度知っている」と回答し、両方で全体の9割を超えている。

消費者庁「令和元年消費者意識基本調査」（以下：消費者庁調査）（※）では同様の設問に対し38.0%が「よく知っている」50.1%が「ある程度知っている」と回答していることから、「食品ロス問題」に対する理解度は比較的高いことが読み取れる。

（※）<調査回答者>全国の満15歳以上の日本国籍を有する者 6,173人（400地点 373市区町村）
 <調査時期>令和元年11月7日～11月30日
 <消費者庁ウェブサイト>
https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/research_report/survey_002/

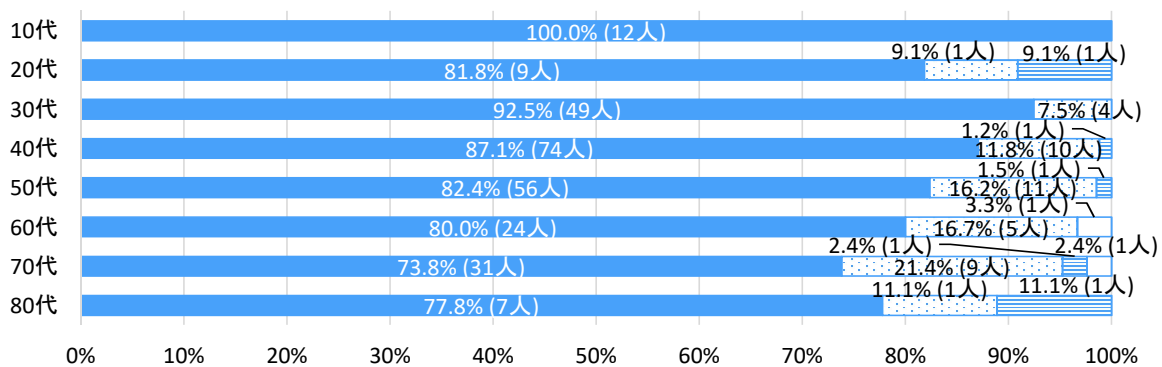
問2 「賞味期限(※1)」「消費期限(※2)」の意味の違いをご存知ですか？
(1つ選択)

(回答者：310人)



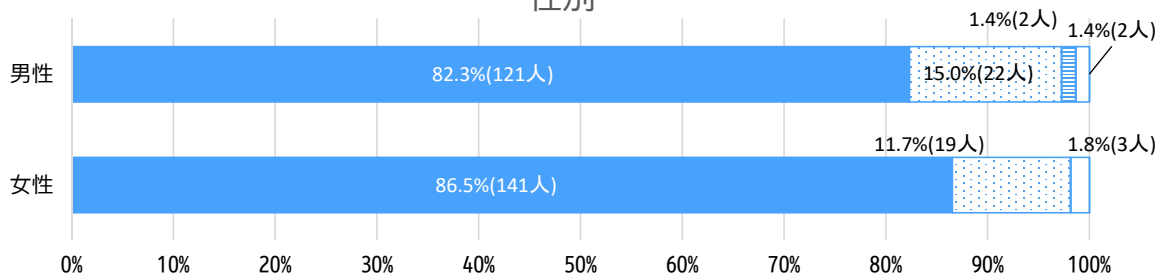
■ 知っている □ 言葉は知っていたが、意味までは理解していない ■ 知らない □ 違いを気にしていなかった

年代別



■ 知っている □ 言葉は知っていたが、意味までは理解していない ■ 知らない □ 違いを気にしていなかった

性別



■ 知っている □ 言葉は知っていたが、意味までは理解していない ■ 知らない □ 違いを気にしていなかった

全体の84.5%が「知っている」と回答し、消費者庁調査の同様の質問・回答が69.7%であったことと比較しても、「賞味期限」と「消費期限」について理解しているものが多い。

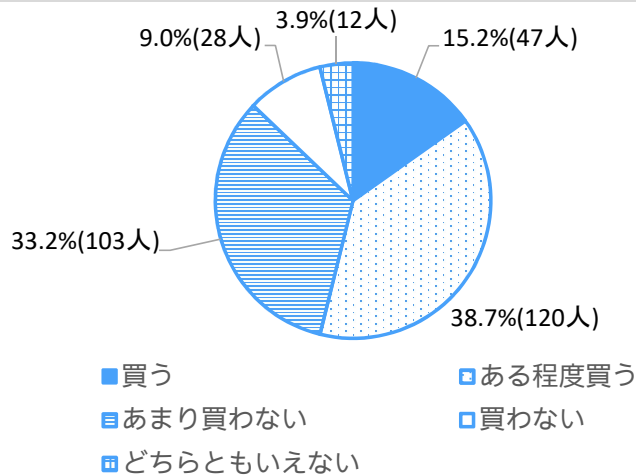
なお10代は12人全員が「知っている」と回答し、ほかの年代と比較しても高い理解度が示されている。これは現在の中学校家庭科教育において「賞味期限」と「消費期限」が扱われていることが影響していると考えられる。

(※1)賞味期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に「品質が変わらずにおいしく食べられる期限」のことで、スナック菓子や乳製品、缶詰などに表示されています。この期限を過ぎても、すぐに食べられなくなるということはありません。

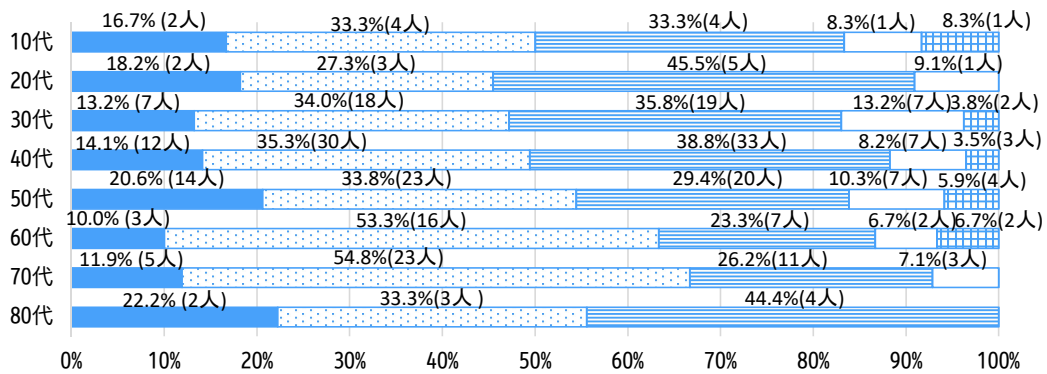
(※2)消費期限：袋や容器を開けないままで、書かれた保存方法を守って保存していた場合に「安全に食べられる期限」のことで、弁当、サンドイッチ、生麺、ケーキなど、傷みやすい食品に表示されています。

問3 賞味期限・消費期限が近づいたものをあえて買いますか？（1つ選択）

（回答者：310人）

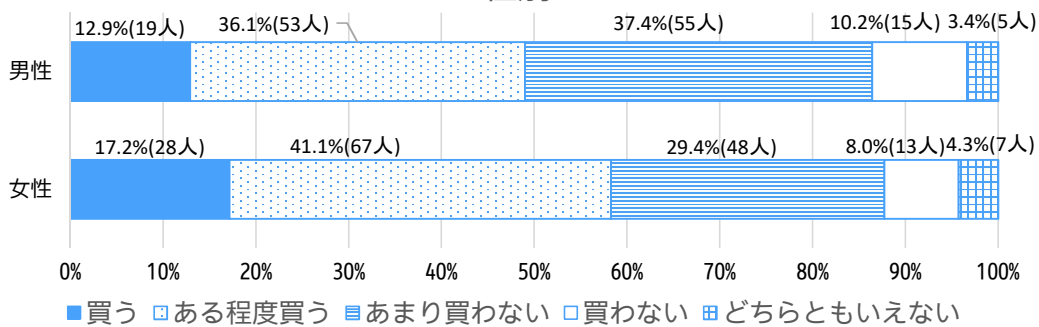


年代別



■ 買う □ ある程度買う ■ あまり買わない □ 買わない ■ どちらともいえない

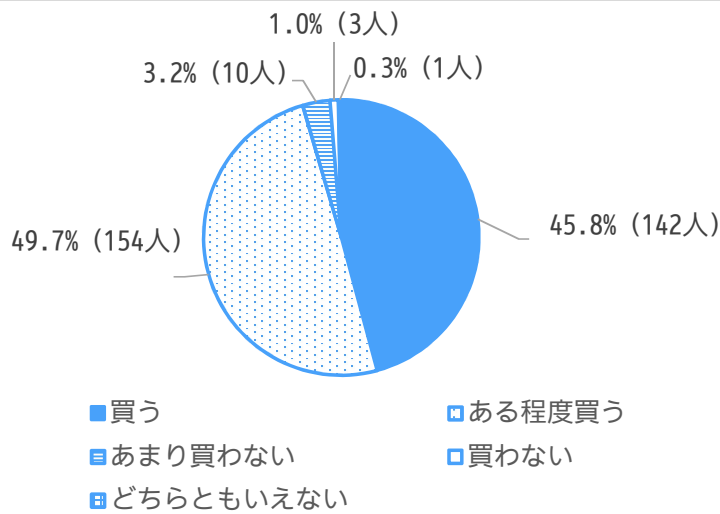
性別



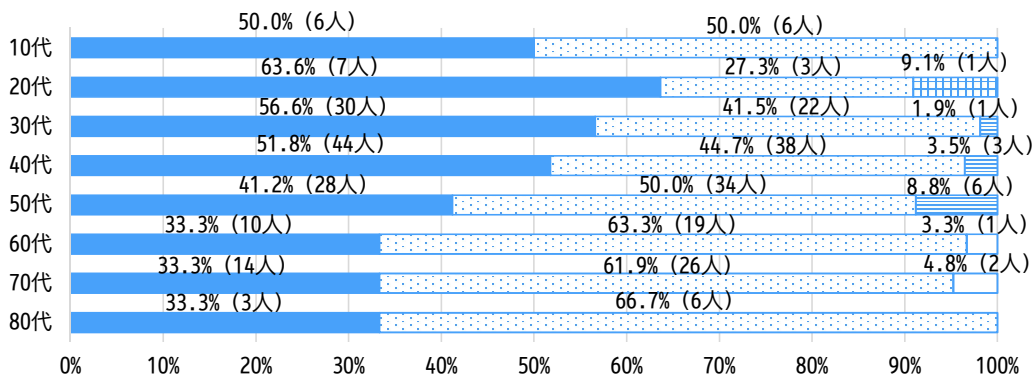
■ 買う □ ある程度買う ■ あまり買わない □ 買わない ■ どちらともいえない

全体の15.2%が「買う」、38.7%が「ある程度買う」と回答し、両方で全体の5割を超えている。
 消費者庁調査では同様の質問に対し2.4%が「かなり当てはまる」、9.0%が「ある程度当てはまる」と回答し、両方で全体の1割程度であったことと比較すると、多くの方が賞味期限・消費期限が近づいたものをあえて買っていることが読み取れる。

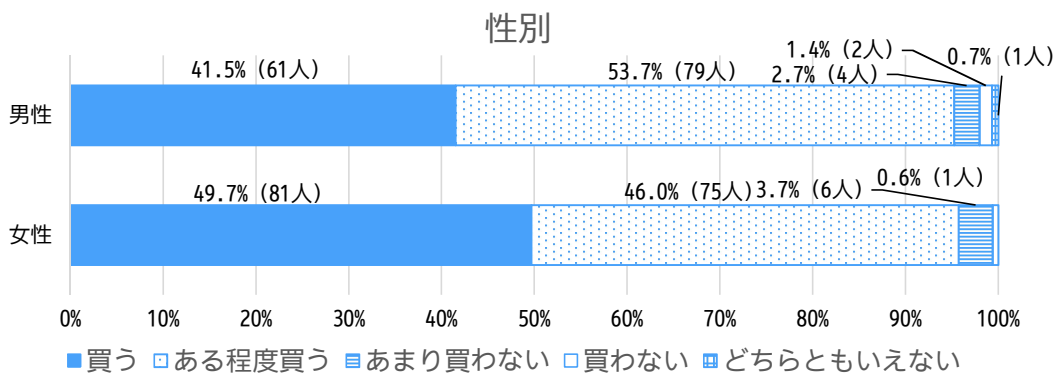
問4 賞味期限・消費期限が近づいても、安くなっていれば買いますか？（1つ選択）
 （回答者：310人）



年代別



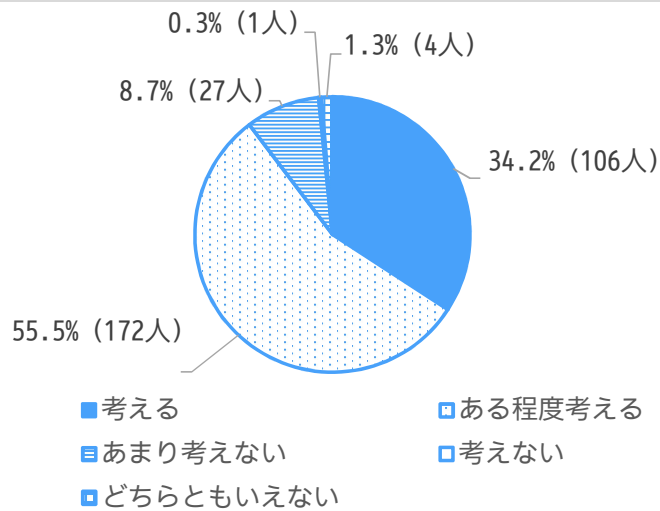
性別



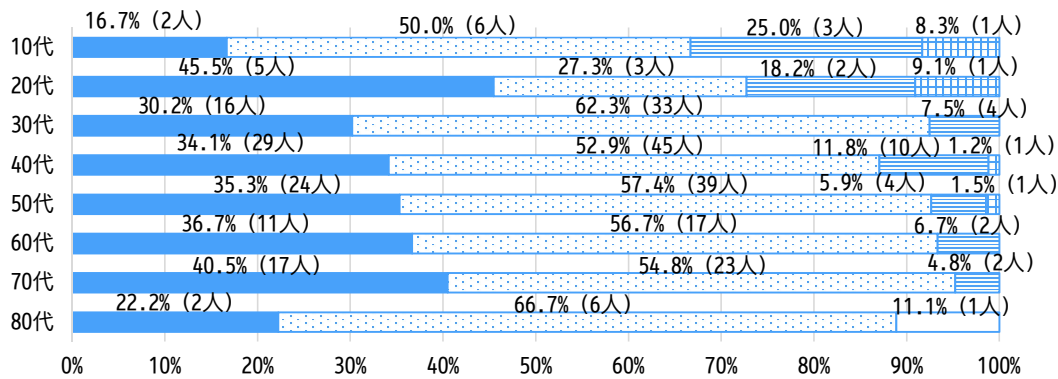
全体の45.8%が「買う」、49.7%が「ある程度買う」と回答し、両方で全体の9割を超えている。
 消費者庁調査では同様の質問に対し14.1%が「かなり当てはまる」、44.3%が「ある程度当てはまる」と回答し、両方で全体の6割程度であったことと比較すると、多くの方が値段が安くなっていた場合、賞味期限・消費期限が近づいたものを買っていることが読み取れる。

問5 買い物に行く前に買うもの（食品）を考えますか？（1つ選択）

（回答者：310人）

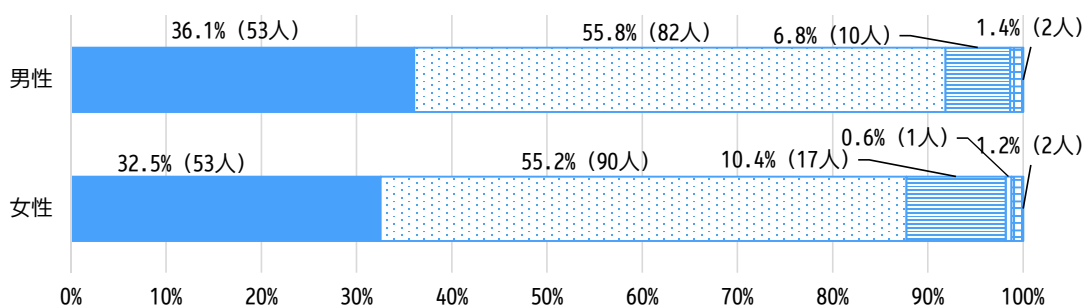


年代別



■考える □ある程度考える ■あまり考えない □考えない ■どちらともいえない

性別

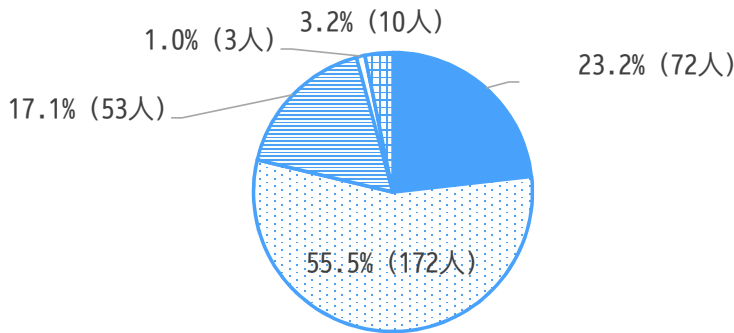


■考える □ある程度考える ■あまり考えない □考えない ■どちらともいえない

全体の34.2%が「考える」、55.5%が「ある程度考える」と回答し、両方で全体の9割程度であった。
 消費者庁調査では「買い物に行ってから買うものを考える」という質問に対し「当てはまらない」が7.5%、「あまり当てはまらない」が22.1%と回答し、両方で3割程度であったことと比較すると、多くの方が買い物に行く前に買うものを考えていることが読み取れる。

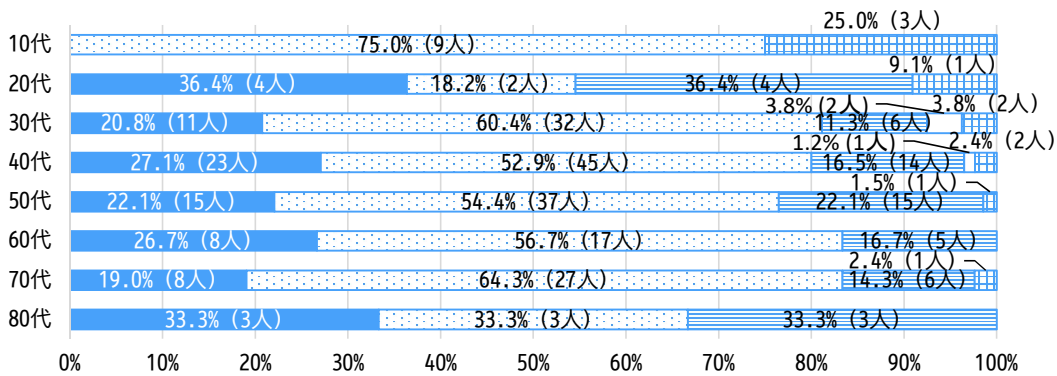
問6 冷蔵庫、食品庫に詰め込み過ぎず、何が入っているか常にわかるようにしていますか？(1つ選択)

(回答者：310人)



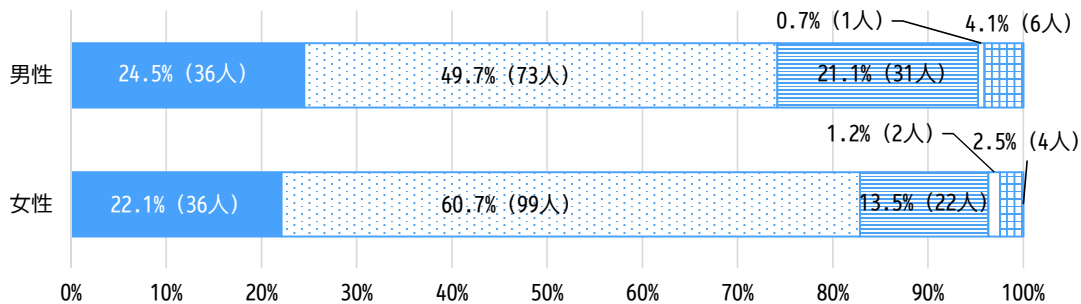
- わかるようにしている
- ある程度わかるようにしている
- あまりわかるようにしていない
- わかるようにしていない
- どちらともいえない

年代別



- わかるようにしている
- ある程度わかるようにしている
- あまりわかるようにしていない
- わかるようにしていない
- どちらともいえない

性別

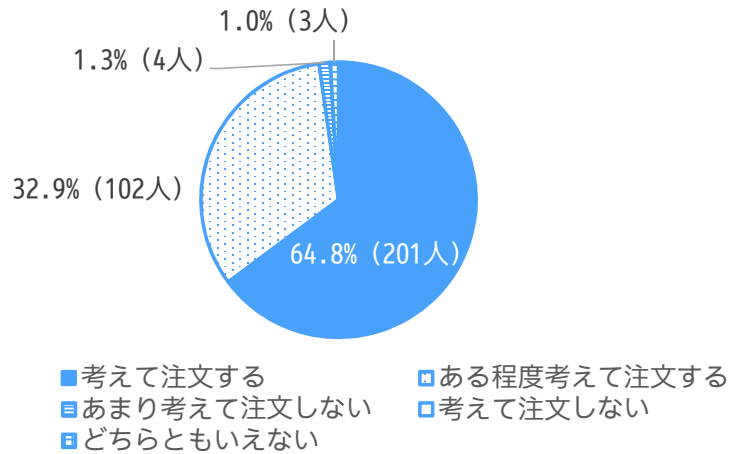


- わかるようにしている
- ある程度わかるようにしている
- あまりわかるようにしていない
- わかるようにしていない
- どちらともいえない

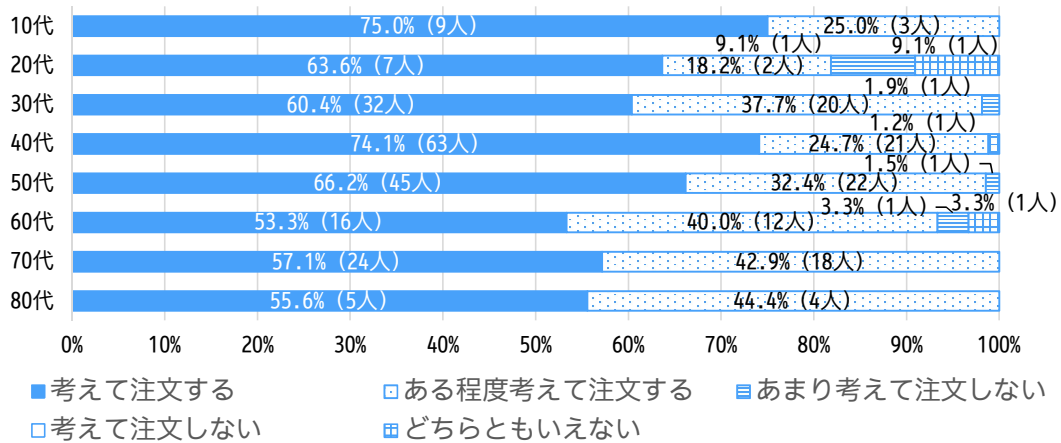
全体の23.2%が「わかるようにしている」、55.5%が「ある程度わかるようにしている」と回答し、両方で全体の8割程度であった。
 消費者庁調査では同様の質問に対し14.6%が「かなり当てはまる」、37.6%が「ある程度当てはまる」と回答し、両方で全体の5割程度であったことと比較すると、多くの方が冷蔵庫・食品庫に詰め込み過ぎず、何が入っているかわかるようにしていることが読み取れる。

問7 外食時、食べきれる量を考えて注文していますか？（1つ選択）

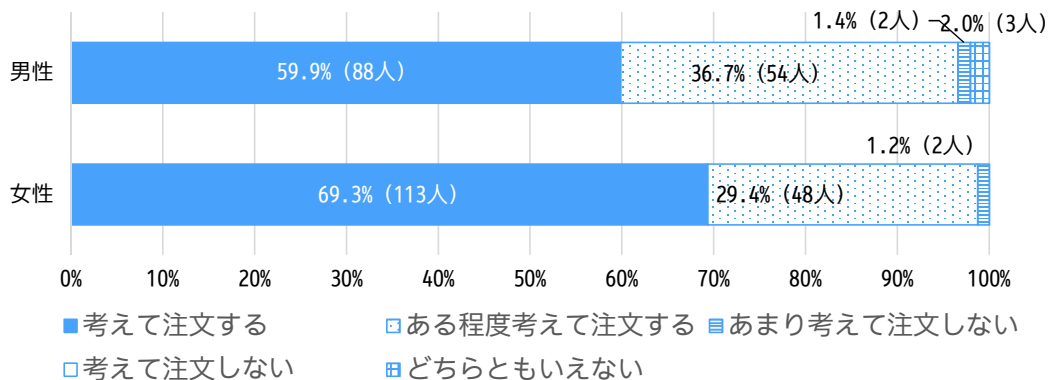
（回答者：310人）



年代別



性別

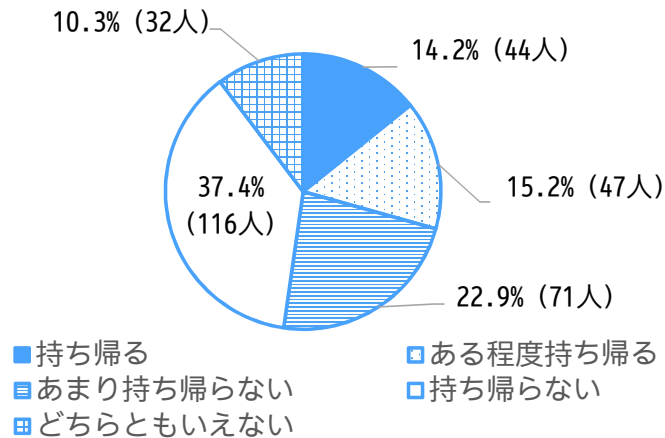


全体の64.8%が「考えて注文する」、32.9%が「ある程度考えて注文する」と回答し、両方で全体の9割を超えている。

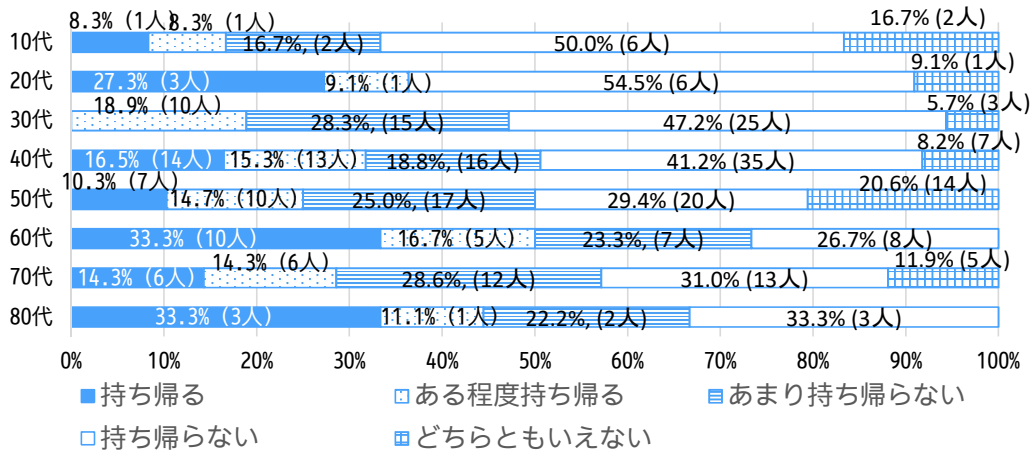
消費者庁調査では同様の質問に対し39.3%が「かなり当てはまる」、42.5%が「ある程度当てはまる」と回答し、両方で全体の8割程度であったことと比較すると、多くの方が外食時、食べきれる量を考えて注文していることが読み取れる。

問8 外食時の食べ残しを「ドギーバッグ(※)」などで持ち帰りますか？(1つ選択)

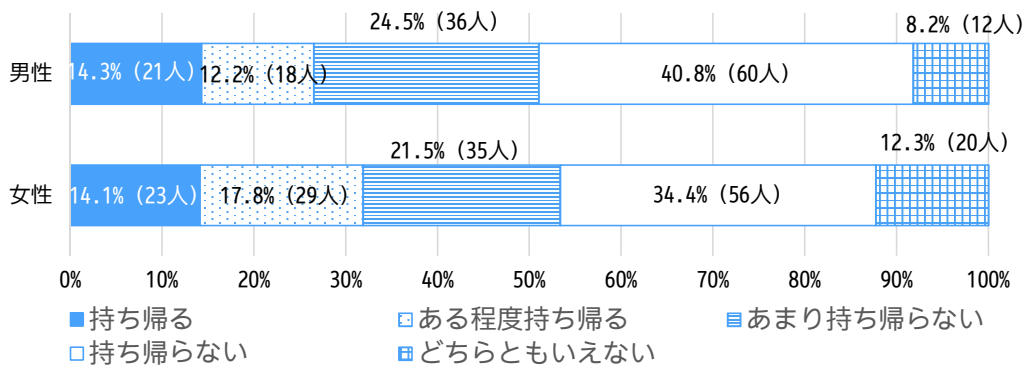
(回答者：310人)



年代別



性別



全体の14.2%が「持ち帰る」、15.2%が「ある程度持ち帰る」と回答し、両方で全体の3割程度であった。

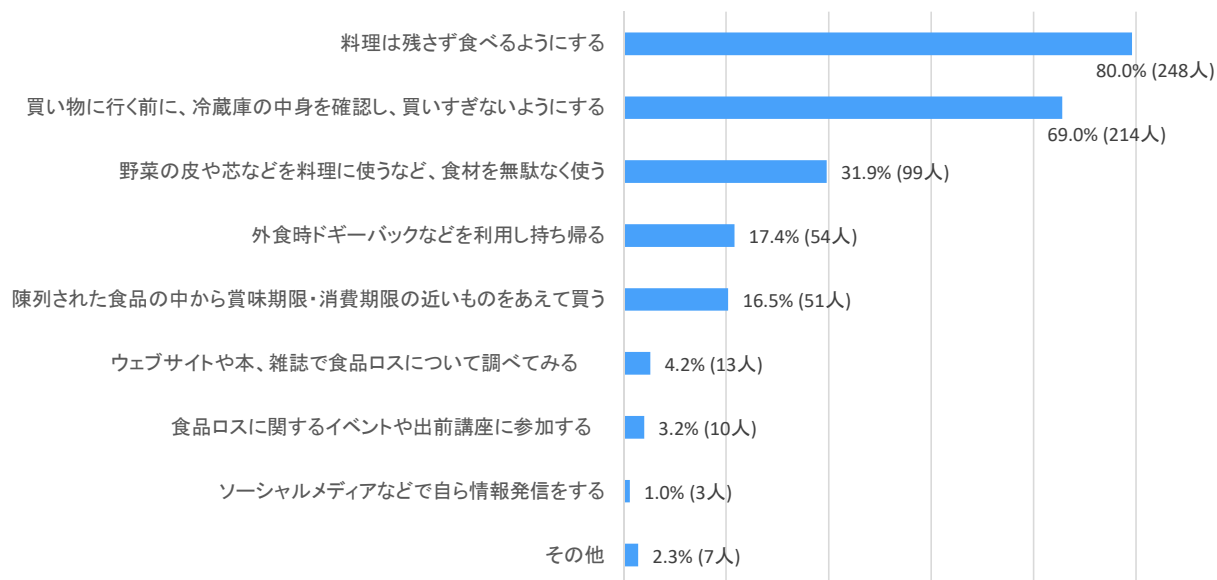
消費者庁調査では同様の質問に対し5.8%が「かなり当てはまる」、13.7%が「ある程度当てはまる」と回答し、両方で全体の2割程度であり、全国と比較すると多くの方がドギーバッグなどで持ち帰っているが、持ち帰らない方のほうが多数であることが読み取れる。

(※) 食べ残しを持ち帰るための容器

※回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがあります。

問9 食品ロス削減に向けて取り組んでみたいことは何ですか？（複数選択可）

（回答者：310人）



◆「その他」を選択した方の主な意見

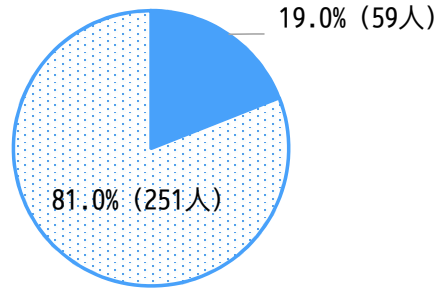
- ・外食する際は空腹具合を考えて注文する。
- ・料理をつくりすぎない。
- ・野菜クズをコンポストで堆肥づくりをしたい。

食品ロス削減に向けて取り組んでみたいことについては、「料理は残さず食べるようにする」が80.0%で最も高く、次に69.0%が「買い物に行く前に、冷蔵庫の中身を確認し、買いすぎないようにする」と回答している。

第2章 ごみ削減に向けた取り組みについて

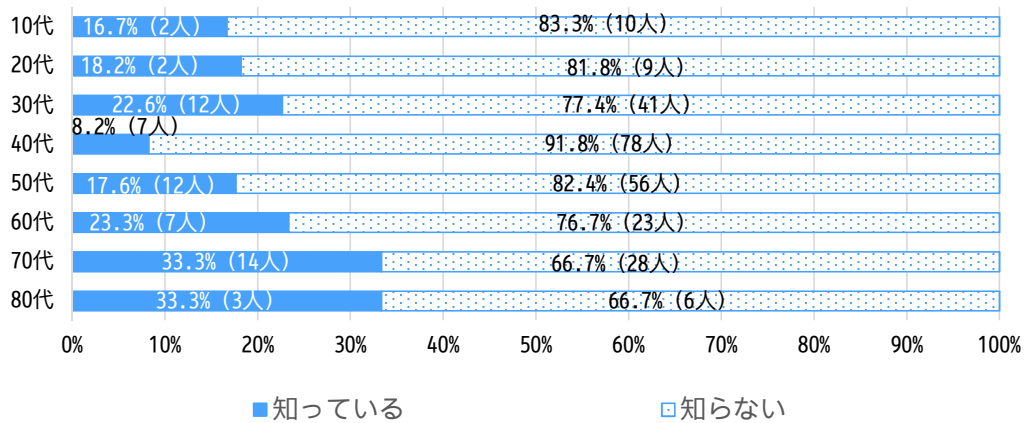
問10 環境省の最新の調査結果によると、郡山市の1人1日あたりのごみ排出量が全国の中核市の中で、最も多いことが明らかになりました。この結果をご存知ですか？
(1つ選択)

(回答者：310人)

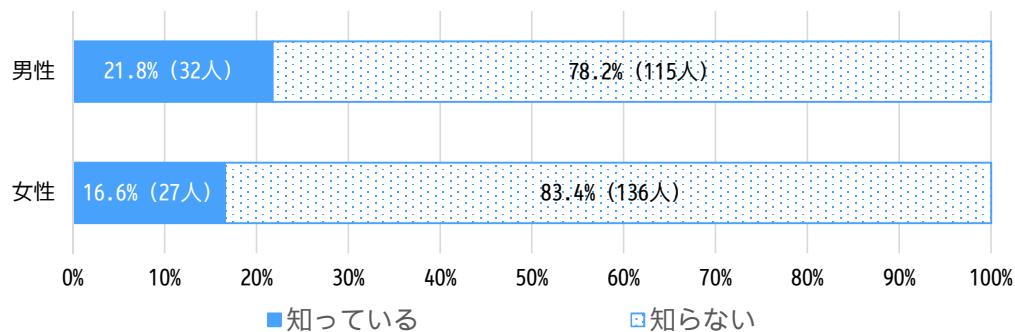


■ 知っている □ 知らない

年代別



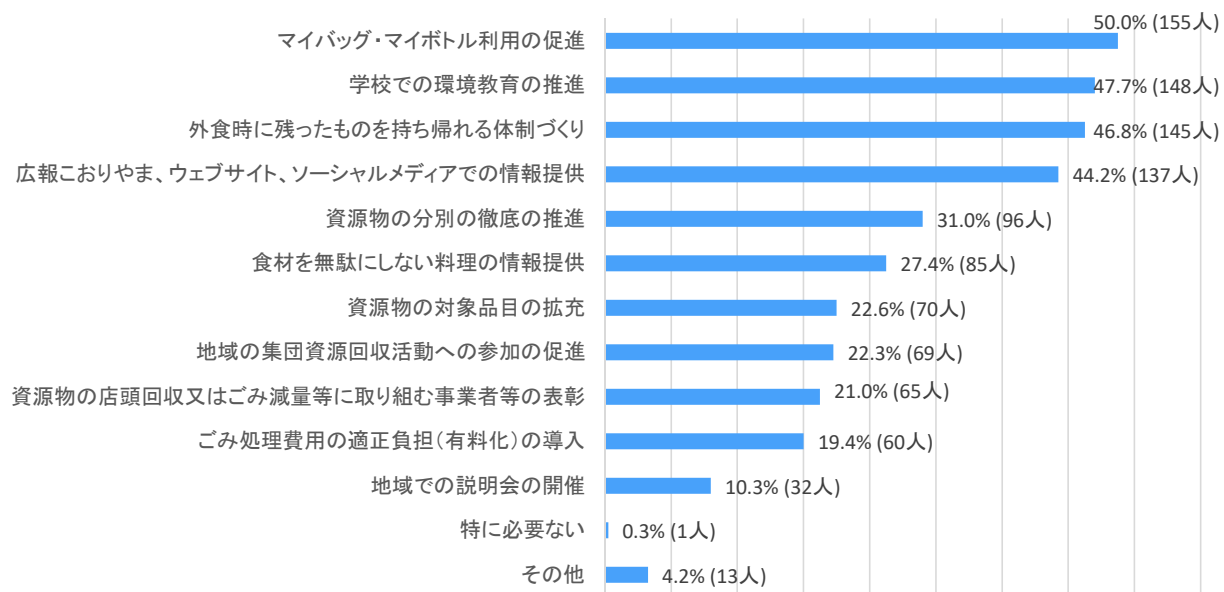
性別



ごみ排出量に関する調査結果について、全体の81.0%が「知らない」と回答。
全ての年代で6割以上の方が、男性、女性いずれも7割以上の方が「知らない」と回答しており、年齢性別にかかわらず十分な理解には至っていないといえる。

問 11 今後郡山市では「食品ロス削減」を含めた「ごみ削減」に向けてどのようなことに力を入れるべきだと思いますか？（複数選択可）

（回答者：310人）



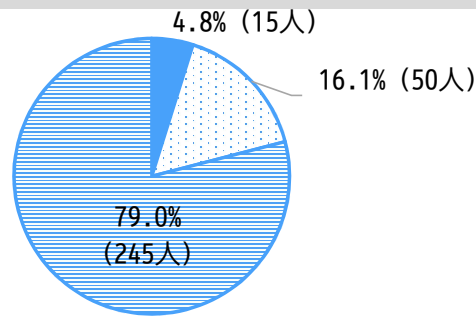
◆「その他」を選択した方の主な意見

- ・資源ごみ回収の取組みをしている企業にメリットを用意する
- ・簡易包装の定着、包装の役目の見直し
- ・草が生える時期に除草したもの等、焼却以外の方法を考える
- ・出前講座での啓発

ごみ削減に向けて力を入れるべきことについては「マイバッグ・マイボトル利用の促進」が50.0%で最も高く、続いて「学校での環境教育の推進」が47.7%、「外食時に残ったものを持ち帰れる体制づくり」が46.8%、「広報こおりやま、ウェブサイト、ソーシャルメディアでの情報提供」が44.2%となっている。

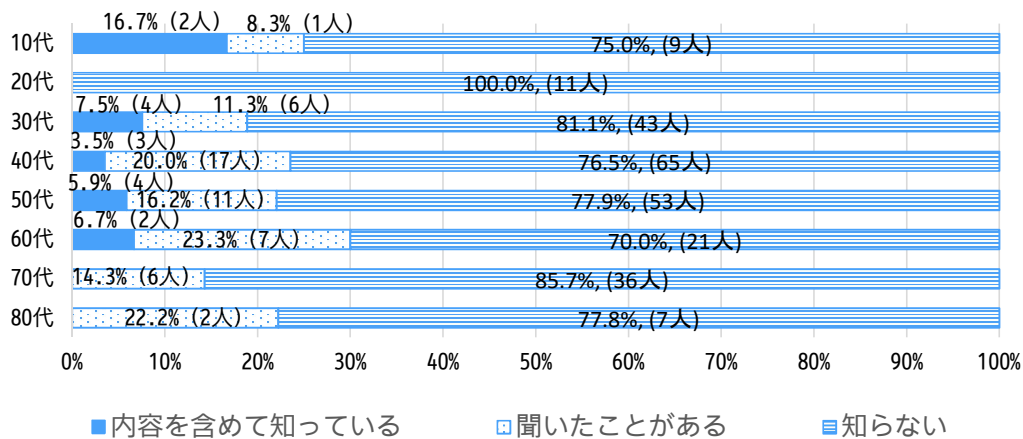
第3章 生活全般や消費生活における意識や行動について

問12 「倫理的消費（エシカル消費）（※）」という言葉をご存知ですか？（1つ選択）
（回答者：310人）



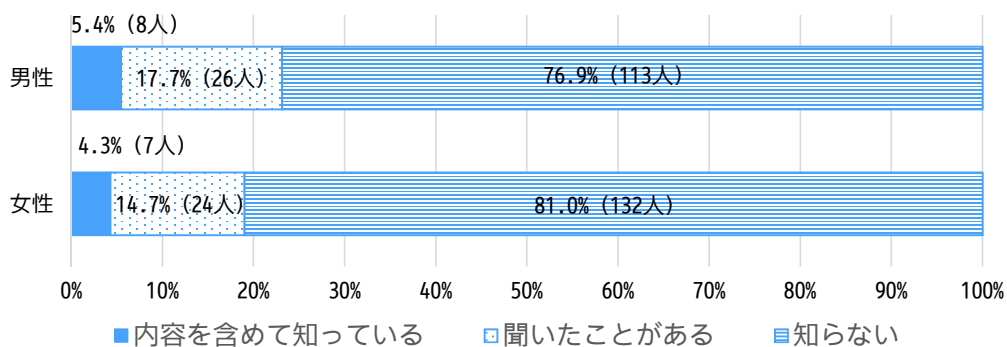
■内容を含めて知っている □聞いたことがある ■知らない

年代別



■内容を含めて知っている □聞いたことがある ■知らない

性別



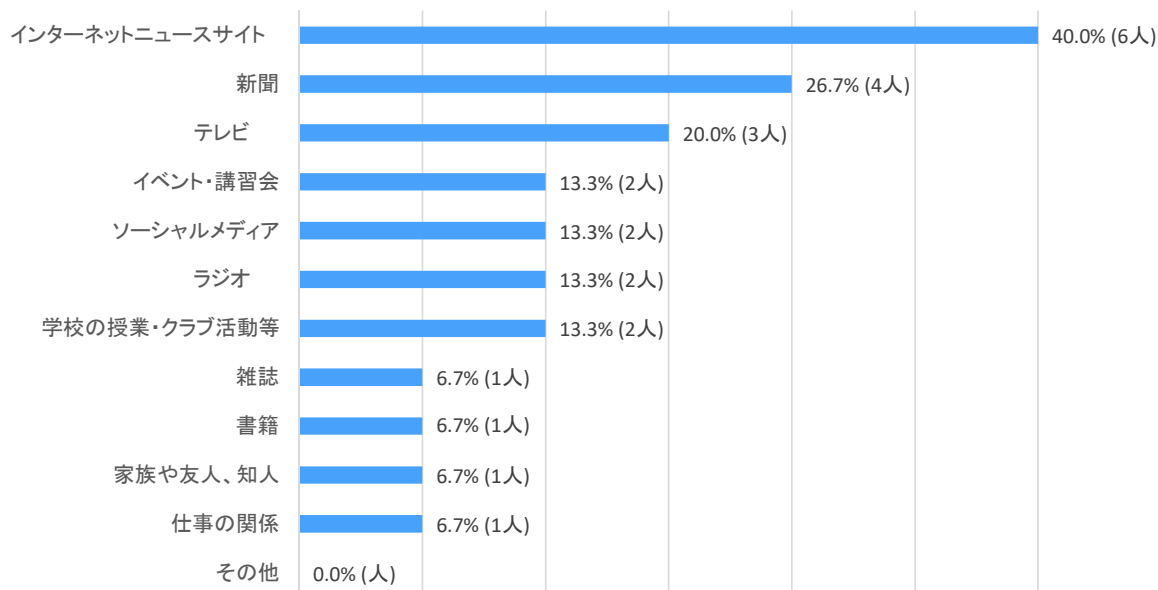
■内容を含めて知っている □聞いたことがある ■知らない

倫理的消費（エシカル消費）という言葉について、全体の79.0%が「知らない」と回答。「内容を含めて知っている」が4.8%であり、言葉が十分浸透しているとは言えないことがわかる。

(※) 地域の活性化や雇用などを含む、人や社会、環境に配慮した消費行動
（広報こおりやま10月号（令和2年10月1日発行）に特集記事を掲載しました。ぜひご覧ください）
（郡山市消費生活センターにおいて出前講座を実施しています。ぜひご利用ください）

問 13 問12で「内容を含めて知っている」を選択した方にお伺いします。何を通じて「倫理的消費（エシカル消費）」という言葉を知りましたか？（複数選択可）

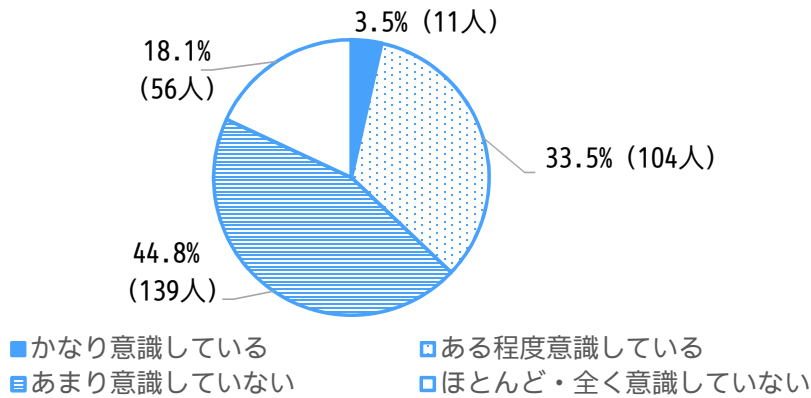
（回答者：15人）



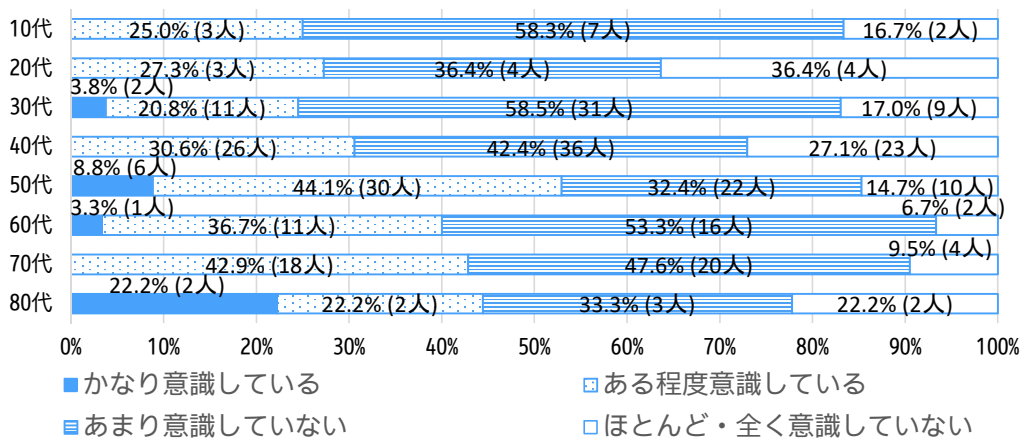
倫理的消費（エシカル消費）という言葉を知ったかについては「インターネットニュースサイト」が40.0%で最も高く、続いて「新聞」が26.7%、「テレビ」が20.0%となっている。

問 1 4 環境に配慮されたマークのある食品・商品を選ぶよう意識していますか？
(1つ選択)

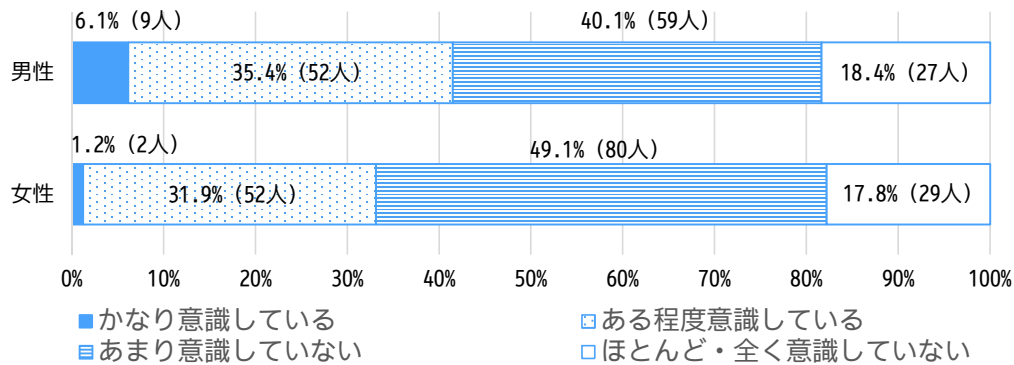
(回答者：310人)



年代別



性別

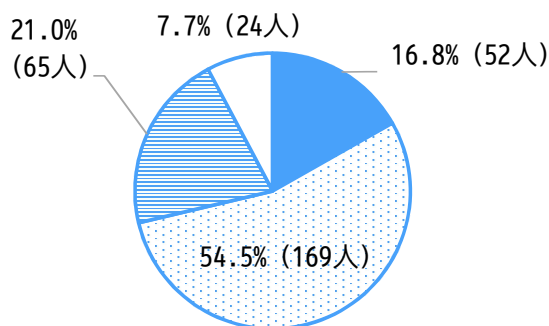


全体の3.5%が「かなり意識している」、33.5%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の4割未満であった。

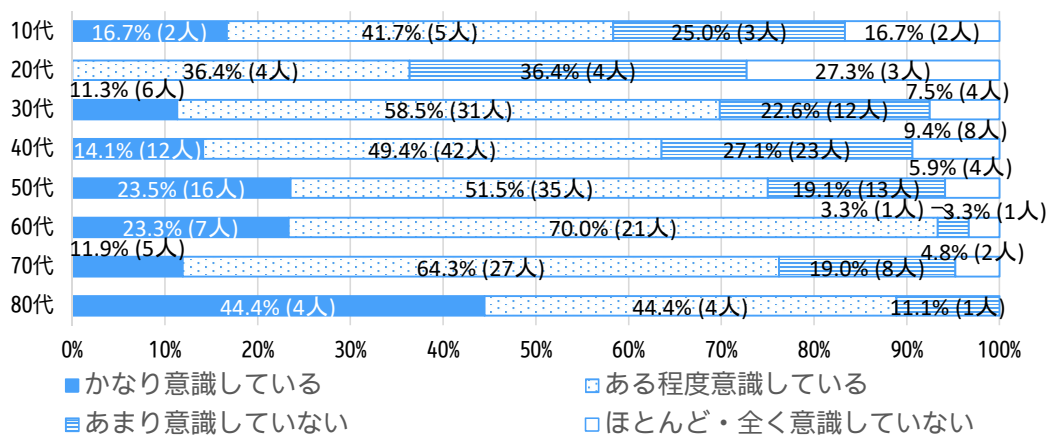
消費者庁調査では同様の質問に対し8.1%が「かなり意識している」、35.9%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の4割を超えており、全国と比較して環境に配慮されたマークのある食品・商品を選ぶ方が多いとは言えないことが読み取れる。

問 15 地元商品を購入して地産地消（※）を実践するよう意識していますか？
（1つ選択）

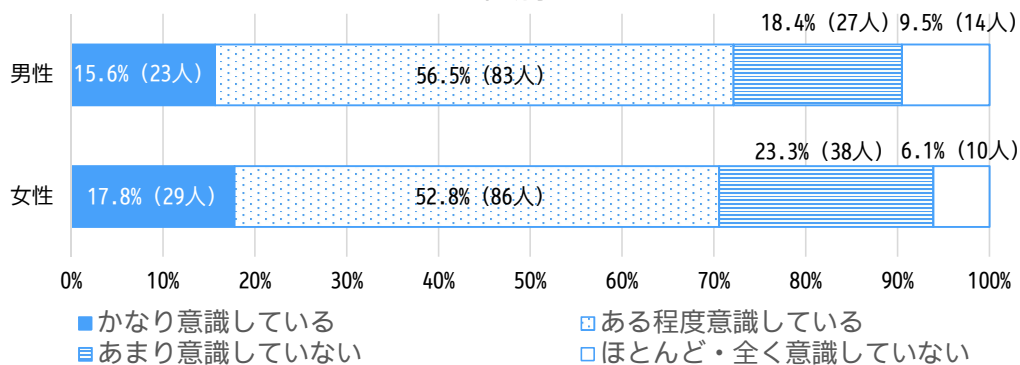
（回答者：310人）



■かなり意識している □ある程度意識している
■あまり意識していない □ほとんど・全く意識していない
年代別



性別

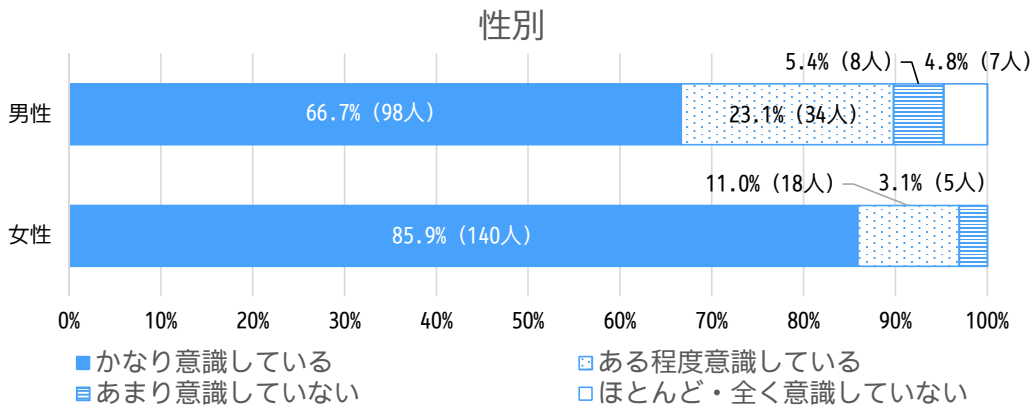
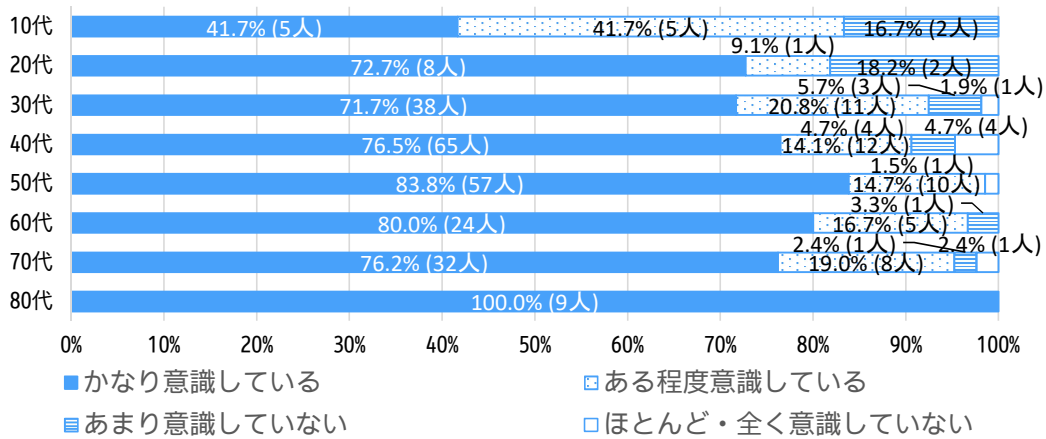
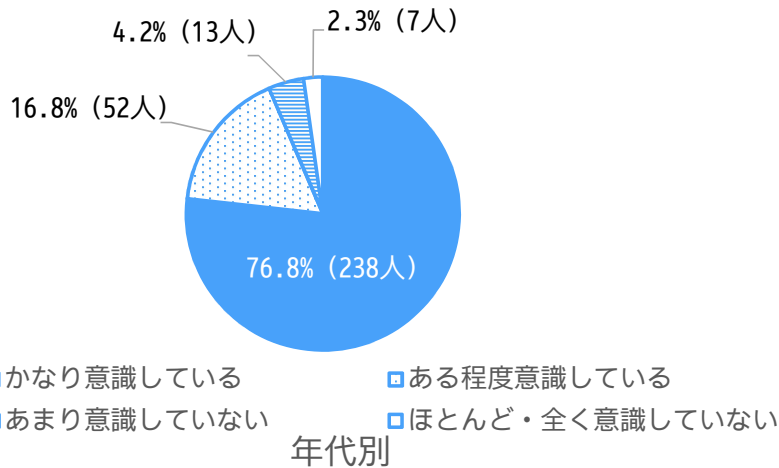


全体の16.8%が「かなり意識している」、54.5%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の7割を超えていた。
消費者庁調査では同様の質問に対し11.1%が「かなり意識している」、35.7%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の5割程度であり、全国と比較して地元産品を購入して地産地消を実践している方が多いことが読み取れる。

(※) 地域で生産されたものをその地域で消費すること

問 16 マイバッグを持ち歩くよう意識していますか？（1つ選択）

（回答者：310人）



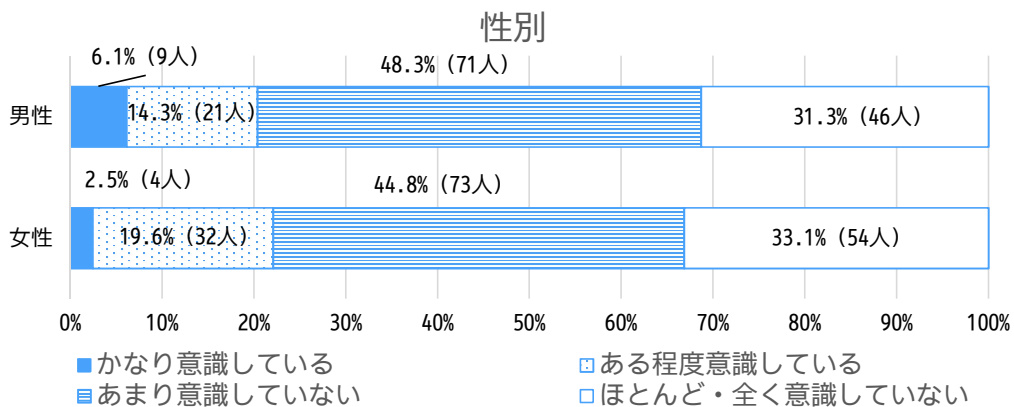
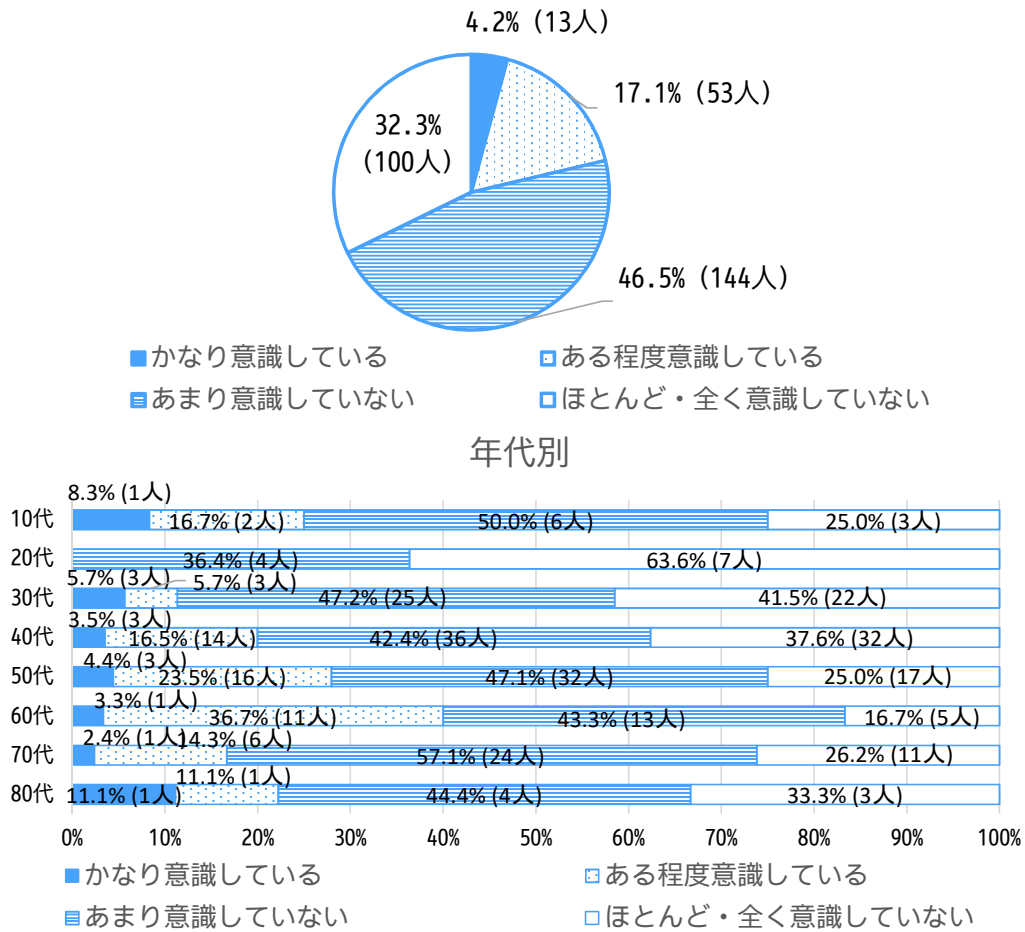
全体の76.8%が「かなり意識している」、16.8%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の9割を超えていた。

消費者庁調査において「レジ袋をもらわない」という質問に対し、23.8%が「かなり意識している」、32.4%が「ある程度意識している」と回答し、両方で6割程度であったことと比較すると、今回の調査では「レジ袋をもらわない」という意識が高く表れているが、これは消費者庁調査後の令和2年7月にレジ袋が有料化となったことが影響していると考えられる。

また性別では「かなり意識している」と回答した男性が66.7%に対し女性が85.9%と19.2ポイント高く、性別による差が見受けられた。

問 17 フェアトレード商品（※）を選ぶよう意識していますか？（1つ選択）

（回答者：310人）



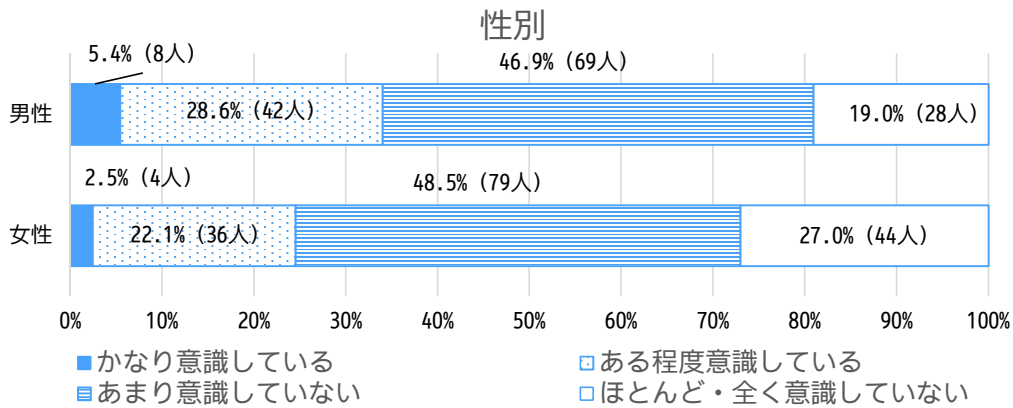
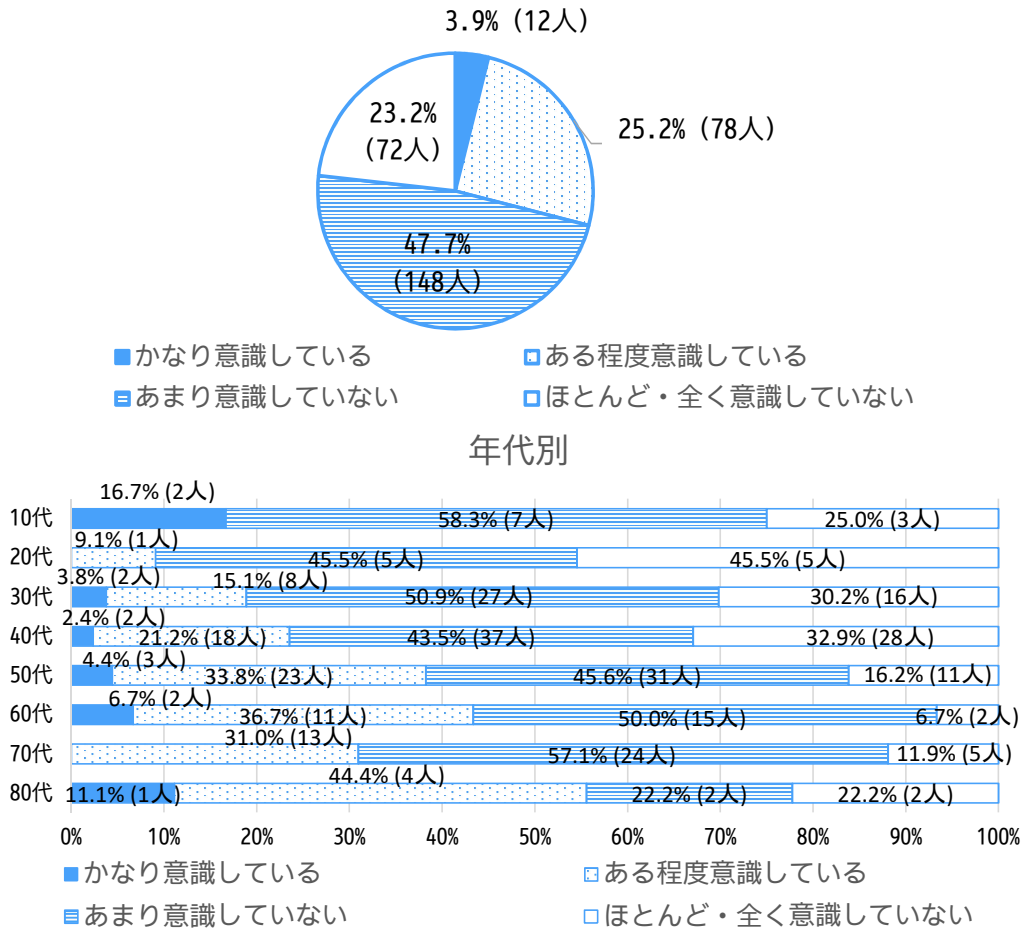
全体の4.2%が「かなり意識している」、17.1%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の2割程度であった。
 消費者庁調査では同様の質問に対し2.6%が「かなり意識している」、10.2%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の1割程度であり、全国と比較すると、フェアトレード商品を選ぶことを意識する方の割合は高いが、行動として広く浸透しているとはいえない。

（※）発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に取引された商品



問18 社会貢献活動に熱心な企業の商品を選ぶよう意識していますか？（1つ選択）

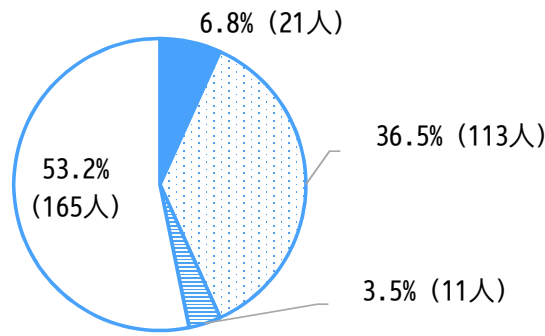
（回答者：310人）



全体の3.9%が「かなり意識している」、25.2%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の3割程度であった。
 消費者庁調査では同様の質問に対し3.5%が「かなり意識している」、15.6%が「ある程度意識している」と回答し、両方で全体の2割程度であり、全国と比較すると、社会貢献活動に熱心な企業の商品を選ぶことが多いことが読み取れる。

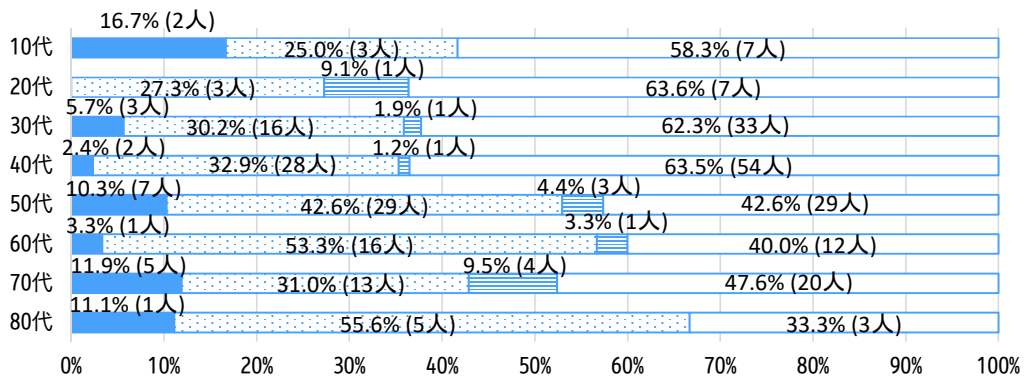
問19 「消費者ホットライン」188(※)をご存知ですか？(1つ選択)

(回答者：310人)



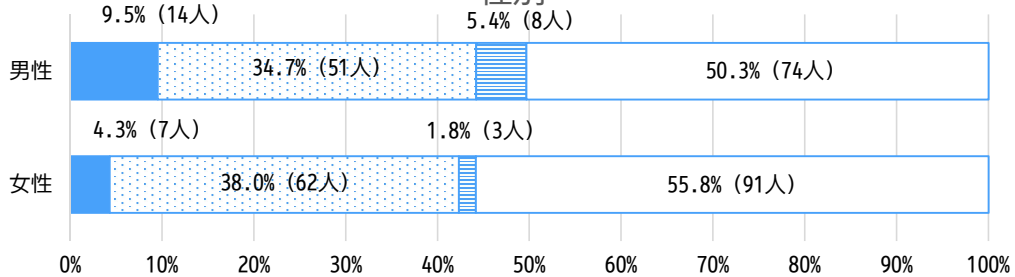
- 内容を含めて知っている
- 188の番号のみ知っている
- 消費者ホットラインの名前のみ知っている
- 名前・番号どちらも知らない

年代別



- 内容を含めて知っている
- 188の番号のみ知っている
- 消費者ホットラインの名前のみ知っている
- 名前・番号どちらも知らない

性別



- 内容を含めて知っている
- 188の番号のみ知っている
- 消費者ホットラインの名前のみ知っている
- 名前・番号どちらも知らない

消費者ホットライン「188」について全体の6.8%のみが「内容を含めて知っている」と回答し53.2%が「名前・番号どちらも知らない」と回答。
 消費者庁調査の質問において、72.7%が「名前を知らなかった」、89.9%が「番号を知らなかった」、83.7%が「内容を知らなかった」と回答し、いずれにおいても7割を超える方が「知らなかった」と回答している。
 これらのことから消費者ホットライン「188」については十分な周知は図られておらず、今後もさらなる啓発が必要であると考えられる。

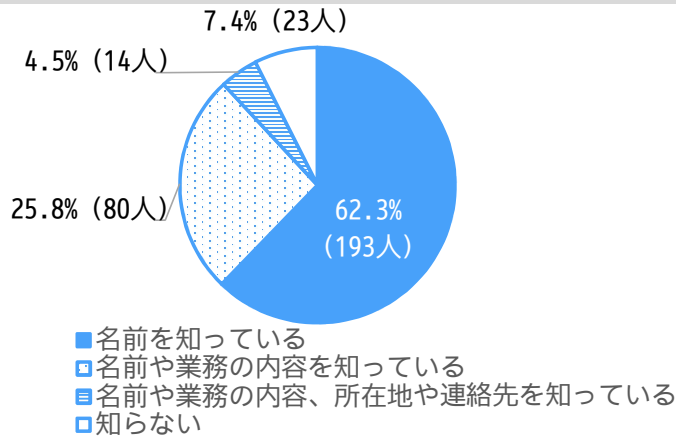
(※) 「消費者ホットライン」は電話で3桁の「188」番にかけると、お近くの消費生活センターや消費生活相談窓口につながり、消費生活相談の最初の一步をお手伝いするものです。

消費者庁 消費者ホットライン188
 イメージキャラクター イヤヤン

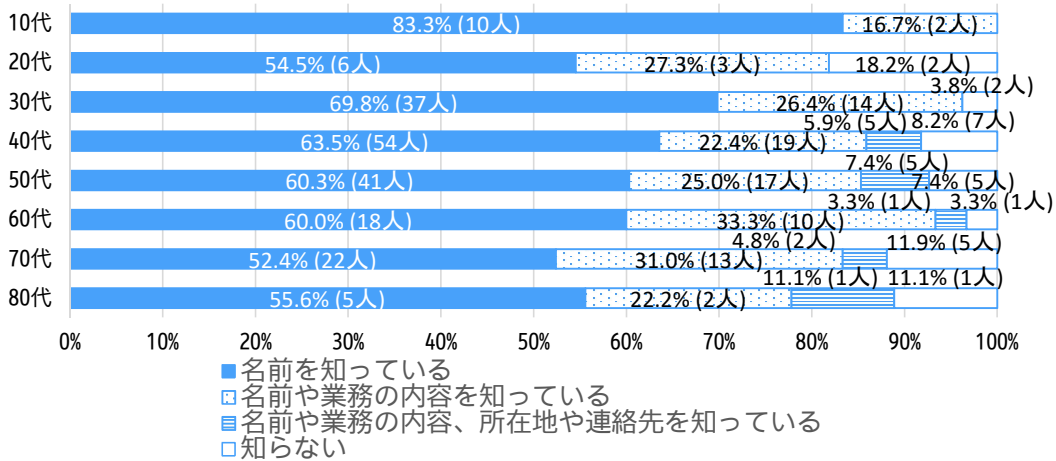


問20 「消費生活センター」をご存知ですか？（1つ選択）

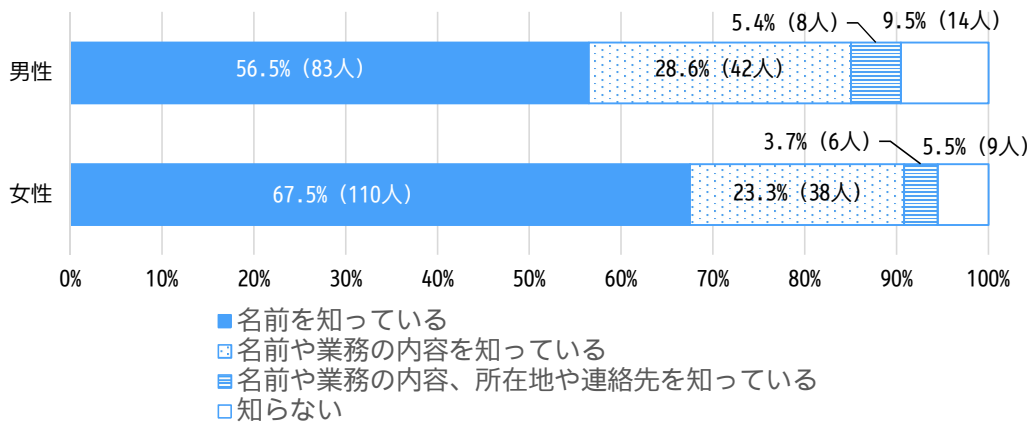
（回答者：310人）



年代別



性別



全体の62.3%が「名前を知っている」、25.8%が「名前や業務の内容を知っている」、4.5%が「名前や業務の内容、所在地や連絡先を知っている」と回答。
 消費者庁調査では同様の質問に対し、全体の61.5%が「名前は知っている」、17.7%が「名前や業務の内容を知っている」、3.9%が「名前や業務の内容、所在地や連絡先を知っている」と回答していることから、全国と比較すると消費生活センターについて知っている方の割合は高いといえる。

問 21 その他、ご意見がございましたら、ご記入ください。（自由記述）

（回答者：57人）

食品ロス削減に向けた取り組みについて

・賞味期限内で余った食品を安価に販売したり、寄付したりすることができる環境を構築していく必要があります。食品、消耗品、備品等は必要なものだけを購入するような習慣を身につけることが、資産形成にもつながります。幼少期の頃からそうしたことを教えていくことが大事です。（50代・男性）

・料理をする時に、野菜など無駄なく使い切りができるようにレシピが知りたい。（40代・女性）

・「食品ロスについて」は、環境保護を考える上でも考える必要があると思うし、大切なことだと思います。市に対しては、「食品ロスについて」を目に見える形で発信してほしいです。（60代・男性）

・家庭での食品廃棄に比べ、スーパーや飲食店の食品廃棄が圧倒的に多いと思います。閉店間際のお店でも相当数のお惣菜が売れ残っているのを目にします。注文や予約を受けてから調理するなどの工夫で一定量の食品ロス削減は実現できると思います。デジタル化の推進が急務の中、需要と供給のバランスが取れた利便性の高いシステム導入を官民合同で検討していくべきだと思います。（30代・男性）

・ビュッフェスタイルで山盛り入れて残す人の気が知れない。TVの大食い競争は教育上よくない。学校で教育すべし。市もあらゆる機会をとらえPRすべし。（70代・男性）

・過剰な包装と飾り物が多すぎる。飲食店で注文時に量の増減が言える習慣になるとよい。（60代・男性）

・講演会で、フェアトレードの話聞いてショックを受けました。それ以来、フェアトレードはかなり意識しています。世界にはお腹いっぱいご飯を食べられない人がいることを意識すれば、食べ残しはゼロにできると思います。家庭での食べ残しをゼロにして、企業には食品が売れ残らない努力をしてほしいです。（40代・女性）

・テレビで、郡山市で家庭ごみを開封し、まだ食べられる食品がどのくらいあるのかを調査したという報道を拝見しました。とても意義がある調査だと思いました。エシカル消費については、広くたくさんの方に知ってもらいたいです。（40代・女性）

外食時の食べ残し・ドギーバックについて

・外食した時、ドギーバックを、くれる所はまだ少ないと思います。かと言ってタッパーを持っていくのも何となく恥ずかしいし。当たり前な感じになるといいと思います。（60代・女性）

・今年に入り、ほぼ外食はしていないが、以前、外食したとき、私は残すのが嫌いなので、持ち帰りたいと伝えたら、衛生上できませんとの返事が多かったです。なので、食べきれない量だと思うお店には、最初から、量を減らしてくださいと、伝えていました。（50代・女性）

・外食時の持ち帰りについて。今はコロナの影響でテイクアウトがよく見られるが、前は衛生面で残したものの持ち帰りはできないということがよく見られた。残したものの持ち帰りがOKな店は目立つ表示があればいいとおもう。（30代・女性）

・外食の際に、どの場所でも持ち帰り用の容器や包材（ごみ問題をクリアしているもの）が準備されていれば（義務化）いいと思っています。もちろんそれは自己責任です。（30代・男性）

ごみ削減に向けた取り組みについて

- ・子どもの頃からの教育が重要。(60代・女性)
- ・シンクの排水溝にディスポーザーを設置し、生ごみを減らすようにしていますが、正直自分たちにとって何のメリットがあるのかと思ってしまいます。処理槽の管理費用が高むだけに思ってしまいます。ごみ削減に協力するメリット、ごみ削減に協力しないデメリットを明確にし、市民の動機づくりに励んだ方がよいと思われます。(30代・男性)
- ・毎週ごみが多いのは感じています。事業所のごみも、資源ごみになる紙製品が多く、もったいないな一と思います。スーパーやお弁当店のトレー類の多さも解消すべきだと思います。(50代・女性)
- ・便利とわがままは違う。過ぎた手軽さが、ものを大切にすることを阻害している。夜間や24時間営業もわがままと助長している大きな原因。(60代・男性)
- ・ペットボトルを使用していない商品を購入し、また自宅で飲み物をつくれる機器を購入して、ペットボトル排出をしないように心掛けています。(40代・男性)

ごみ処理費用の有料化について

- ・ごみ袋の有料化だけは避けていただきたい。そこに頭を悩ましたくありません。ごみの減量化や食料をムダにしないことを啓蒙してもらいたい。もったいない意識を何より高めてもらいたい。(50代・女性)
- ・ごみ袋を有料にしてごみを減らすような対策が必要だと思う。ごみ袋がフリーな自治体は珍しいと思う。(40代・女性)
- ・市の指定ごみ袋が有料である所も多いのに、郡山市は、無料で捨てることのできるのありがたいです。(40代・男性)
- ・ごみ処理の有料化は少量化にはよいが、ごみのポイ捨てに繋がると環境問題が起こる。難しい問題です。(70代・男性)

ごみ排出量に関する調査結果について

- ・郡山市が中核都市の中で一番悪いことは知らなかったのでもとても残念です。それを市民の皆さんが自覚をしなければいけないと思います。(60代・女性)
- ・郡山市のごみ排出量が中核市では、1番多いことに市民として大いに考えなければならぬと思う。自分自身の生活ぶりを考えこれからも、もっと意識をしてごみ問題を対処していきたい。(70代・男性)
- ・郡山市のごみ排出量が多い市だということに驚きました。「ごみを減らそう」と言われても何が減らせるのかを知ってる人は少ないと思います。家庭ごみなのか企業からのごみなのか、食料なのか容器なのか、情報にふれる機会の少なさが「自分には関係ない」に繋がると思います。広告、ソーシャルメディア等で受動的に情報を目にできれば、かつ調べたときに情報が出てくるように(市のウェブサイト等で)してもらえるといいなと思います。(20代・女性)
- ・調査結果は衝撃的でした。家庭用だけでなく店舗も含まれるなら、思い切った対策が必要だと思います。また、なぜ多いのか分析し、削減に成功している他県の例を真似するなど、早急に対応してほしいと思います。(40代・女性)

その他

- ・本質問の回答をしていると如何に自分が無意識か分かってきました。今後気をつけたいと思います。(70代・男性)
- ・今回のアンケートで、興味がわきました。自分のできる範囲でいろいろ調べて、行動にうつしたいと思います。(30代・女性)
- ・ごみを減らしフードロス無くすために、家族みんなで今一度、自分たちに出来ることは何か話し合ってみたいと思います。(40代・男性)